

摂南大学大学院の概要

〈2024年度入学者用〉

— 目次 —

1. 大学の沿革・趣旨・教育研究上の目的
2. 法学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
3. 国際言語文化研究科・・・・・・・・ P 4
4. 経済経営学研究科・・・・・・・・ P13
5. 理工学研究科・・・・・・・・ P20
6. 薬学研究科・・・・・・・・ P25
7. 看護学研究科・・・・・・・・ P31

1. 大学の沿革

1975(昭和50)年	摂南大学を開学、工学部を開設
1982(昭和57)年	国際言語文化学部・経営情報学部を増設
1983(昭和58)年	薬学部を増設
1988(昭和63)年	大学院薬学研究科修士課程(薬学専攻)を増設 法学部を増設
1989(平成元)年	大学院工学研究科修士課程(社会開発工学専攻、機械・システム工学専攻)を増設
1990(平成2)年	大学院薬学研究科博士課程(薬学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設 大学院工学研究科修士課程(電気電子工学専攻)を増設
1995(平成7)年	大学院経営情報学研究科修士課程(経営情報学専攻)を増設
1997(平成9)年	大学院法学研究科修士課程(法律学専攻)を増設
1999(平成11)年	大学院国際言語文化研究科修士課程(国際言語文化専攻)を増設
2005(平成17)年	大学院経営情報学研究科博士課程(経営情報学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設 国際言語文化学部を外国語学部に変更
2006(平成18)年	薬学部を6年制に移行
2008(平成20)年	大学院工学研究科博士課程(創生工学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設
2010(平成22)年	経済学部を増設 経営情報学部を経営学部に変更 工学部を理工学部に変更
2012(平成24)年	看護学部を増設 大学院薬学研究科博士前・後期課程(薬学専攻)を博士課程(医療薬学専攻4年制)に移行
2014(平成26)年	大学院経済経営学研究科修士課程(経済学専攻・経営学専攻)を増設 大学院工学研究科を理工学研究科に変更し、生命科学専攻(修士課程)を増設、機械・システム工学専攻および電気電子工学専攻を生産開発工学専攻(博士前期課程)に改組
2016(平成28)年	大学院理工学研究科博士課程(生命科学専攻)〔修士課程を博士前期課程に変更〕を増設 大学院看護学研究科修士課程(看護学専攻)を増設
2020(令和2)年	農学部を増設
2022(令和4)年	国際学部を増設
2023(令和5)年	現代社会学部を増設

2. 趣 旨

本大学院は、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与することを目的とする。

修士課程・博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

博士課程・博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

3. 教育研究上の目的

- 1 法学研究科法律学専攻は、高度の法学知識を身につけた専門職業人として、実務と理論に強い組織内型法律実務専門家およびパラリーガルと呼ばれる広義の独立型法律実務専門家を養成することを目的とする。
- 2 国際言語文化研究科国際言語文化専攻は、国際化により世界が直面している複雑な諸問題の解決に貢献できるよう、語学力を身につけるとともに異文化を深く理解し、高度な専門知識を持つ人材を養成することを目的とする。
- 3 経済経営学研究科経済学専攻は、国際経済、地域経済、観光経済を中心とした現代経済学の高度な理論および実証分析の方法を修得し、地域社会・国際社会に貢献できる高度専門職業人を養成することを目的とする。
- 4 経済経営学研究科経営学専攻は、企業経営、会計、経営情報に関する高度な専門知識と社会の変化を的確に捉えて理解する知識を身につけ、外部環境の変化に柔軟に対応できる高度専門職業人を養成することを目的とする。
- 5 理工学研究科社会開発工学専攻は、建設および建築に環境保全を加えた社会開発について、高度な専門能力を持つ人材を養成することを目的とする。
- 6 理工学研究科生産開発工学専攻は、機械工学や電気電子工学を基盤として、材料・物性、エネルギー、システム制御、情報・通信、生産・加工等の広範囲の領域について、高度な専門能力を持つ人材を養成することを目的とする。
- 7 理工学研究科生命科学専攻は、分子生命科学や生体生命科学を修得し、医療、環境、食糧等の分野において、高度な専門能力を持つ人材を養成することを目的とする。
- 8 理工学研究科創生工学専攻は、工業製品から都市・建築に関わる構造物までの広範囲なモノづくりにおいて、新しい価値の創生と技術革新を担い得る高度な知的専門職業人を養成することを目的とする。
- 9 薬学研究科医療薬学専攻は、医療現場での臨床的課題等を対象とする研究を通して薬学分野の高度な知識・技能・態度を修得し、高度な医療に応えることができる優れた研究能力を有する薬学研究者および薬剤師等の育成を目的とする。
- 10 看護学研究科看護学専攻は、地域社会で生活する人々を支援する看護実践者および研究能力を基盤とした看護教育者を育成することを目的とする。

【公法系】

研究指導教員	小島 俊朗 教授	小野 晃正 教授	萩原 守 教授
--------	----------	----------	---------

授業科目	担当教員	内 容
法律学特論Ⅰ・Ⅱ	田中敦 教授	法律が社会において持つ意味を、具体的な紛争や裁判例などを踏まえて掘り下げてみたい。授業に当たっては、受講生に関心のある事項を優先して、授業を進めていく予定である。
法哲学特論Ⅰ	松島裕一 准教授	各自の専攻科目とそこでの研究テーマを前提にして、「自由」「平等」「権利」など、法学全般にかかわる基礎概念を探究する。とりわけ法哲学特論Ⅰでは、20世紀以降に公刊された最新の文献を精読する予定である。
法哲学特論Ⅱ	松島裕一 准教授	受講生の関心を踏まえつつ、法哲学特論Ⅱでは19世紀以前に発表された法哲学の古典作品を精読する予定である。その作業を通じて、「法とは何か?」「法はいかにあるべきか?」といった、法学の根本問題に取り組みたい。
法制史特論Ⅰ・Ⅱ	萩原守 教授	受講者の希望・関心を聞きつつ、日本や諸外国の法制史とその研究状況とをわかりやすく解説していく。特に、前近代日本法制史に大きな影響を与えた中国の伝統法と、近代日本法制史に大きな影響を与えたドイツ法制史を中心に、世界的な広がり意識した法制史の授業をしたい。
憲法特論Ⅰ	浮田徹 准教授	憲法学のうち、憲法総論、統治機構の部分を採り上げます。憲法とは何か、基本原理とは何か、といった憲法学の根本的な部分から、三権分立を採用する日本の統治機構における諸原理について深く理解することを目的とします。
憲法特論Ⅱ	浮田徹 准教授	憲法学のうち、基本的人権の分野を採り上げます。基本的人権に関する判例を中心に知識を再確認しつつ、基本的人権の原理についての理解を深めます。
行政法特論Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
スポーツ法特論Ⅰ・Ⅱ	石井信輝 教授	スポーツ振興政策を検討していく上で必要となる基本的な視点について考察する。特に日本・フランスにおける法制的視点から検討を加える。
租税法特論Ⅰ	小島俊朗 教授	租税法は、あらゆる経済活動に関係しているため、その学問領域は広範囲に及ぶが、租税法特論Ⅰでは、租税法の総論（共通的事項）と租税法の特徴が最も現れている所得税法を中心に学んでいく。
租税法特論Ⅱ	小島俊朗 教授	租税法は、あらゆる経済活動に関係しているため、その学問領域は広範囲に及ぶが、租税法特論Ⅱでは、所得税法と並んで租税実体法の中でも特に重要な相続税法、法人税法、消費税法と租税手続法、不服申立て制度等について学んでいく。なお、時間の制約から消費税法については割愛することがある。
刑法特論Ⅰ・Ⅱ	小野晃正 教授	法学研究科が目指している法律実務専門家（税理士・司法書士・裁判所職員・刑務官及び公務員職等）の養成を念頭において、刑法実務の中核をなす刑事判例を素材に犯罪論と実務がどのように関係しているかを分析し、それを通じて実務専門家に必要な知識と洞察力を涵養していく。
刑事訴訟法特論Ⅰ	島田良一 准教授	刑事手続に関する諸問題のうち、捜査段階におけるものについて、我が国及び外国の学説・判例（実務）の状況を踏まえながら検討する。
刑事訴訟法特論Ⅱ	島田良一 准教授	刑事手続に関する諸問題のうち、公判段階におけるものについて、我が国及び外国の学説・判例（実務）の状況を踏まえながら検討する。
国際法特論Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
法制史特論演習Ⅰ・Ⅱ	萩原守 教授	受講者の希望・関心を聞きつつ、前近代日本法制史に大きな影響を与えた中国の伝統法と、近代日本法制史に大きな影響を与えたドイツ法制史を中心に、研究論文を日本語で読み込むことによって、法制史の最新の研究状況を理解してもらう。
憲法特論演習Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
行政法特論演習Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
スポーツ法特論演習Ⅰ・Ⅱ	石井信輝 教授	各自が選択したスポーツ法制に関するテーマについて、文献・資料・判例等をもとに掘り下げ、修士論文を完成させる。
租税法特論演習Ⅰ・Ⅱ	小島俊朗 教授	租税法特論を踏まえ、判例や裁決事例の検討を行う。判例等は、争いの多い分野から取り上げることとし、租税法に対する理解を深める。
刑法特論演習Ⅰ・Ⅱ	小野晃正 教授	毎回担当者が報告した後、問題点等について討議を行っていく。
刑事訴訟法特論演習Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
国際法特論演習Ⅰ・Ⅱ	未定	未定

【私法系】

研究指導教員	田中 敦 教授	小山 昇 教授	城内 明 教授	寺山 洋一 教授
--------	---------	---------	---------	----------

授業科目	担当教員	内 容
民法Ⅰ～Ⅷ	田中敦 教授	主に親族、相続法の分野で生ずる頻度の高い紛争類型を選び、その紛争を解決するための手続である家事調停、家事審判、人事訴訟等を学習した後、資料に基づいた具体的事例について検討する。重要な最高裁判例の検討も行う。
	城内明 教授	不法行為法研究。不法行為法の基本テーマの一つである権利侵害論につき、学説の現状を理解する。
	家本真実 准教授	財産法に関する判例研究をおこないます。日本の民法だけでなく、アメリカの契約法(Contracts)や不動産法(Property)を取り上げ、両者を比較しながら、日本の民法をより深く考察していただきます。
	大川謙蔵 准教授	民法で規律される内容のうち、財産法を中心とした問題を扱う。特に、民法総則部分を中心として問題を検討する予定である。そこでの制度の基本的理解及び判例の理解を前提とした議論を行う予定であるが、学生の進路等に合わせて適宜対象を決定する予定である。総則部分であるため、財産法と関連する家族問題についても、場合により取り上げることを予定している。
企業法特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	未定	未定
民事訴訟法特論Ⅰ・Ⅱ	田中敦 教授	民事訴訟法という手続法を通じ、法体系の一貫性を理解する。民事法の実体法である民法、手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれいかなる役割を担っているかを正確に理解し、それぞれの機能を学ぶ。とりわけ、民事訴訟法については、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割を十分に理解したうえで、最新の判例に関する検討を行う。
労働法特論Ⅰ	寺山洋一 教授	雇用・労働関係の諸法律のうち、労働保護法制として主要な労働基準法のみならず、男女雇用機会均等法などの法律を含めて、その体系的な仕組みや立法過程の特色、個別の論点について探求します。
労働法特論Ⅱ	寺山洋一 教授	雇用・労働関係の諸法律のうち、労使関係法制として主要な労働組合法のみならず、労働関係調整法などを含めて、その体系的な仕組みや労働委員会の組織の特色、個別の論点について探求します。
国際私法特論Ⅰ	小山昇 教授	国際私法の構造に関する重要問題を検討します。わが国の国際私法の基本法である「法の適用に関する通則法」を中心として、外国国際私法規定との対比も含めてその構造面から問題点を探ることで、「抵触法規定のあり方」を考察します。
国際私法特論Ⅱ	小山昇 教授	わが国際私法の構造の理解を前提として、各論である具体的な「抵触規定」の理解を深めることとしますが、特に、その連結政策の基本的な規定がある「国際家族法」の分野を中心にその構造と問題点を論究します。
財産法特論演習Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
家族法特論演習Ⅰ・Ⅱ	田中敦 教授	家族法特論Ⅰ・Ⅱで研究・検討した課題をさらに緻密に検討し、討議等を通じて修士論文に至る指導を行う。演習の具体的内容やレベルなどについては、受講生と相談のうえで決定する。
企業法特論演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	未定	未定
民事訴訟法特論演習Ⅰ・Ⅱ	田中敦 教授	民事法の手続法である民事訴訟法を学ぶことによって、さらに紛争解決方法としての司法の役割についても検討する。
労働法特論演習Ⅰ・Ⅱ	寺山洋一 教授	労働法特論Ⅰ・Ⅱで検討した課題を更に精緻に探究するとともに、議論や討議などを通じ、修士論文に至る指導を行います。
国際私法特論演習Ⅰ・Ⅱ	小山昇 教授	国際私法特論Ⅰ及びⅡで検討した課題をさらに緻密に検討し、討議と検証を通じて修士論文に至る指導を行います。

【政治系】

研究指導教員	中沼 丈晃 教授	河原 匡見 教授	石井 信輝 教授
--------	----------	----------	----------

授業科目	担当教員	内 容
政治学特論Ⅰ・Ⅱ	和田泰一 准教授	政治学に関する専門的な知識・方法を習得し、明晰かつ判明な政治的原理に基づいてさまざまな政治的事象・理念を論じうる能力を身につけることを目的とする。そのために、政治学・政治理論に関する近代以降の英語文献を精読していく。その結果学生は、確実な原理・論証に基づいた独自の政治的パースペクティブを構築することができる。
行政学特論Ⅰ	中沼丈晃 教授	公共政策の形成における行政の役割の実際を理解することを目的とし、注目を集める最近の立法をめぐる状況を追う形で授業を進める。立法をめぐる状況を追ううえでは、官僚と政治家との関係に焦点を当てる。
行政学特論Ⅱ	中沼丈晃 教授	公共政策の実施と評価における行政の役割の実際を理解することを目的とし、理論を理解するために実例を参照するのではなく、実例を理解するために時に理論の力を借りるスタンスをとる。
政治史特論Ⅰ・Ⅱ	河原匡見 教授	「政治史」という学問について、その専門的な知識や思考方法を習得しながら、具体的な歴史的事例を学ぶことを目的とする。本講では、Ⅰでは国内政治（日本政治）に関する事例を、Ⅱでは国際政治に関する事例を取り上げ、それに関する専門書誌を読み込んでいく。
国際関係特論Ⅰ・Ⅱ	河原匡見 教授	「国際関係論」という学問について、その専門的な知識や思考方法を習得することを目的とする。そのためには、大学院レベルでは原書講読を避けて通ることはできない。本講では、国際関係に関する専門書籍（原書）や専門雑誌の英語論文、あるいは英字紙の記事を読み込んでいく。
地域政策特論Ⅰ・Ⅱ	増田和也 准教授	地域政策を研究する上で必要となる知識および技能を身につけることを目的とする。地域政策に関する学術論文や、研究方法論についての文献を中心に講読し、内容についての議論を行いながら授業を進める。
政治学特論演習Ⅰ・Ⅱ	未定	未定
行政学特論演習Ⅰ・Ⅱ	中沼丈晃 教授	行政学・公共政策論の修士論文を執筆する予定の学生が、演習Ⅰでは学術論文を書くうえで必要な基礎的な力を身につけることを、演習Ⅱでは一般に公開できる学術論文を完成させることを目的とする。
政治史特論演習Ⅰ・Ⅱ	河原匡見 教授	まず、政治史として分析に値するテーマかどうかを判断し、それを踏まえた上で、一次資料を中心に分析するための資料収集を進めていく。併せて政治学の視点からの資料の分析を進め、その結果を修士論文として完成する。以上のことをこの特論演習の目的とする。
国際関係特論演習Ⅰ・Ⅱ	河原匡見 教授	まず、その対外政策を分析対象とする国家を確定し、そのうえで国際関係において分析に値する問題を見つけ出す。そして、それらを分析する資料操作の方法を学びながら、その分析結果を修士論文として完成する。以上のことをこの特論演習の目的とする。
地域政策特論演習Ⅰ・Ⅱ	増田和也 准教授	地域政策に関連するテーマを各自で設定し、文献調査、フィールドワーク、データ分析等を行いながら、修士論文の完成を目指す。受講生の関心を踏まえて、リサーチ・クエスションの設定と研究方法の選定、研究の実施について指導を行う。

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	研究指導教員			
欧米言語文化	有馬善一 教授	柏原郁子 教授	齋藤安以子 教授	鳥居 祐介 教授
	中島直嗣 教授	加来奈奈 准教授	後藤一章 准教授	船本弘史 准教授
アジア言語文化	赤澤春彦 教授	上田達 教授	浦野崇央 教授	門脇薫 教授
	橋本正俊 教授	田中悟 准教授	-	-

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
欧米言語文化	英米言語文化特論ⅠA (教職対象)	西川眞由美 教授	【語用論・英語コミュニケーション】 語用論（言語の運用に関する理論）と英語におけるさまざまなコミュニケーション（言語・非言語）に関し、データを分析し研究する。ⅠAでは、まず、語用論に関する主な論文を読み進め、理論自体の理解を深める。その後、具体的な事例を用い、ある状況で特定の言語表現やジェスチャーを使ってどのような伝達が行われているのか、相手はどのようにして話し手の意味や意図を解釈するのか、さらに、ポライトネス等対人関係などにも着目しながら、効果的なコミュニケーションのあり方を追究する。
	英米言語文化特論ⅠB (教職対象)	西川眞由美 教授	【語用論・英語コミュニケーション】 語用論（言語の運用に関する理論）と英語におけるさまざまなコミュニケーション（言語・非言語）に関し、データを分析し研究する。ⅠBでは、ⅠAで学んだ語用論に関するさまざまな理論を使って、間接表現、ポライトネス（配慮表現）、レトリック（メタファー、アイロニー、誇張）、談話標識などがどのように解釈されるのか、またそれらを使うことでコミュニケーションを行う上でどのような効果が得られるのかなど、人間の認知と伝達について考察する。
	英米言語文化特論ⅡA (教職対象)	齋藤安以子 教授	【英文学】 英文学作品を題材に、文体分析の基本的な考え方・データの収集方法・実際に分析を行っていく際の手続き・分析方法について理解を深めることを目的とする。また、文体論の知見を英語教育にどう活かすか考えることもめざす。
	英米言語文化特論ⅡB (教職対象)	齋藤安以子 教授	【英文学】 シェイクスピア演劇に関する理論を学ぶ。当時の様々な戯曲を原作で精読し、その作品に関連する書籍・論文等を参照しながら、作品論について考察および議論を行うことで、受講者のドラマ・リテラシーを涵養する。
	英米言語文化特論ⅢA (教職対象)	柏原郁子 教授	【教育工学】 語学教育において、ICTを効果的に活用するための教材研究・開発・作成を行う。ⅢAでは、コンピュータ、インターネット、モバイル媒体を利用したリスニング・スピーキングのさまざまなICT教材について、実際に活用し、評価を行う。受講者はMoodle、その他のツールを利用し、学習者に動機付けを与え、学習継続が可能なリスニング・スピーキングコンテンツの開発を目指す。
	英米言語文化特論ⅢB (教職対象)	柏原郁子 教授	【教育工学】 語学教育において、ICTを効果的に活用するための教材研究・開発・作成を行う。ⅢBでは、コンピュータ、インターネット、モバイル媒体を利用したリーディング・ライティングのさまざまなICT教材について、実際に活用し、評価を行う。受講者はMoodle、その他のツールを利用し、学習者に動機付けを与え、学習継続が可能なリーディング・ライティングコンテンツの開発を目指す。
	英米言語文化特論ⅣA	中島直嗣 教授	【音声学・音韻論】 主に現代英語のデータの言語科学的分析に基づいて、音声学および音韻論の理論について学んでいく。具体的には、分節音（母音・子音）における基本的特徴や、連結・脱落・同化などの音連続における現象、さらには強勢やリズム・イントネーションといった韻律的特徴にも注目し、考察を行っていく。また、必要に応じて、日本語との比較対照研究も行いながら、理解を深めていきたい。

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
欧米言語文化	英米言語文化特論Ⅳ B	中島直嗣 教授	【音声学・音韻論】 主に現代英語のデータの言語科学的分析に基づいて、音声学および音韻論の理論について学んでいく。具体的には、形態論（語形成）とのインターフェイスや、語順や品詞といった文法と音声の関連性、さらには世界の英語の変種などにも視野を広げ、言語の多様性と普遍性についても追究してみたい。また、必要に応じて、日本語との比較対照研究も行いながら、理解を深めていく。
	英米言語文化特論Ⅴ A （教職対象）	鳥居祐介 教授	【アメリカ研究】 アメリカ研究(American Studies)の主要な理論と実践について学ぶ。アメリカ合衆国の人種、階級、ジェンダーに焦点をあてた学際研究分野がどのように発達し、変化しつつあるのかを、研究の実例を読み、討議することを通じて理解する。研究の実例は 20 世紀のアメリカ文化史、とりわけ大衆文化(Popular Culture)を対象としたものから受講生の関心に応じて選ぶ。
	英米言語文化特論Ⅴ B （教職対象）	鳥居祐介 教授	【アメリカ研究】 アメリカ研究(American Studies)の主要な理論と実践について学ぶ。アメリカ合衆国の人種、階級、ジェンダーに焦点をあてた学際研究の実例を読み、討議することを通じて研究分野への理解を深め、先行研究を批判的に読む姿勢を身に着ける。研究の実例は受講生の関心に応じて選ぶ。実例の中で分析対象とされている一次資料の読解も行う。
	英米言語文化特論Ⅵ A	不開講	
	英米言語文化特論Ⅵ B	不開講	
	英米言語文化特論Ⅶ A （教職対象）	後藤一章 准教授	【言語学】 現代英語の語彙や統語に関する諸問題を、コーパス言語学の観点から、実証的に研究する。英語に対する言語感覚が養われると共に、コーパス処理に際してコンピュータを使用するため、テキスト整形やファイル操作の知識も養われることになる。
	英米言語文化特論Ⅶ B （教職対象）	後藤一章 准教授	【言語学】 現代英語の語彙や統語に関する諸問題を、コーパス言語学の観点から、実証的に研究する。前期に習得したテキスト整形やファイル操作の内容をさらに推し進め、プログラミング処理によるコーパス解析手法について学ぶ。
	英米言語文化特論Ⅷ A （教職対象）	船本弘史 准教授	【言語学】 システミック機能言語学（SFL）における文法理論について学び、言語および言語使用の機能的分析を実践する。具体的には機能主義の観点から英語と日本語の文法を対比するための基礎的な方法論について学び、テキスト分析を通じて言語の固有性をその実相に即して観察・記述する力を養う。
	英米言語文化特論Ⅷ B （教職対象）	船本弘史 准教授	【言語学】 システミック機能言語学（SFL）における文法理論について学び、言語および言語使用の機能的分析を実践する。SFL における統語理論として注目される 2 つのアプローチを比較することを中心に考察する。発展として機能的アプローチをもとにした認知・生態学的コミュニケーションモデルへの応用についても紹介する。

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
欧米言語文化	欧米地域文化特論ⅠA	有馬善一 教授	【ヨーロッパ思想】 ヨーロッパは近代化をいち早く成し遂げることで、世界史をリードする存在となった。しかし、近代化の運動そのものは、ヨーロッパという一地域に限定されるものではなく、近代的な人間観、資本主義と産業社会の発達、科学・技術の進歩は、やがて地球的規模に拡大している。ⅠAでは、近代を特徴付けている「近代性」とは何であったのかという問題提起から始めて、近代性を主に政治・経済的な観点から考察する。ネーション・ステートの形成、国民と民族の統合と齟齬の問題、資本主義の勃興から帝国主義へと到る過程がその主な考察対象となる。
	欧米地域文化特論ⅠB	有馬善一 教授	【ヨーロッパ思想】 ⅠAでの考察に引き続いて、近代性の問題を取り上げる。ⅠBでは、近代性を主に思想・文化的な観点から考察する。近代的自我の「発見」と自立的な人間精神の確立、近代科学の発達と技術による世界支配の問題、脱魔術的な合理性の浸透と支配構造の変化、個の自立の裏面としての大衆社会の問題、さらに、「もはや近代ではない」と言われるポスト・モダンの状況がもたらしている現代の精神的な危機について考察を進める。
	欧米地域文化特論ⅡA	担当者未定	
	欧米地域文化特論ⅡB	担当者未定	
	欧米地域文化特論ⅢA	加来奈奈 准教授	【西洋史学】 歴史学の視点から西洋世界を中心とするジェンダーの問題に迫る。近世ヨーロッパでは、外交において女性はいまだ活躍されなかったとされながらも、多くの王家の女性たちは、仲介者としてヨーロッパの平和交渉に尽力したことを考察する。近世ヨーロッパの国際関係を理解するとともに、そうしたなかで女性が具体的にどのような活動したのかを、欧米文献や史料をとして、実証的に明らかにし、説明する力を身につける。
	欧米地域文化特論ⅢB	加来奈奈 准教授	【西洋史学】 歴史学の視点から西洋世界を中心とするジェンダー問題の諸相に迫る。近世ヨーロッパの政治の場である宮廷における女性の活動を具体的に見ていくことで、当時のエリートの女性たちが果たした役割をさぐる。近世はとりわけ男の君主の時代とされる中で、女性が果たした宮廷の文化や社会、そして政治や外交における役割についてみていくことで、これまでの男性中心の歴史では見えてこなかったこと部分を考察する。
	欧米地域文化特論ⅣA	担当者未定	

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
欧米言語文化	欧米地域文化特論ⅣB	担当者未定	
	欧米言語文化研究総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	有馬善一 教授 柏原郁子 教授 齋藤安以子 教授 鳥居祐介 教授 中島直嗣 教授 加来奈奈 准教授 後藤一章 准教授 船本弘史 准教授	欧米言語文化研究総合演習は欧米の地域を中心とした言語・文化・思想・歴史と多岐にわたった領域にまたがっており、各々専門の研究者の指導の下、大学院学生として各自の研究テーマにそった指導を受ける。基礎文献・参考文献等、適切な選択をした上で各自のテーマを自分の視点で論文として完成することを目指す。 ※研究・論文指導を含む

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
アジア言語文化	アジア言語文化特論ⅠA	中西正樹 教授	【中国研究】 中国の哲学や思想について「漢字の成り立ち」を通して考える。漢字の研究には、音韻学を基盤とする藤堂明保に代表されるアプローチと、宗教や習俗の視点を重視する白川静によるアプローチがある。この二つの流れを対比させ、かつ批判的に資料を読み進めることで、漢字の体系を作りあげた古代人の精神性および現代にいたる文化への影響を考察する。これと同時に、研究における立場や手法によってそこから導かれる成果が大きく異なることにも理解を深める。
	アジア言語文化特論ⅠB	中西正樹 教授	【中国研究】 数千年に渡って行われてきた中国伝統文化の思考様式、生活文化、精神文化及び中国語表現の視点から、参考資料を通じて、中国言語文化の実相・諸相について分析し、考察する。
	アジア言語文化特論ⅡA	浦野崇央 教授	【東南アジア研究】 インドネシアと日本の関係性について考察する。インドネシアー日本間の交流は、文化・社会・政治・経済・軍事等、幅広い分野における人的交流や物的交流など、多岐にわたる。この講義では、日本とインドネシアの関係性に焦点を絞り、歴史的観点を踏まえつつ、相互交流の特徴的な傾向を把握し、社会学的視点を踏まえ考察を進める。
	アジア言語文化特論ⅡB	浦野崇央 教授	【東南アジア研究】 ⅡAに引き続き、インドネシアと日本の関係性について考察する。ⅡBでは、特に「認識（イメージ）」に焦点をあてる。人的交流・物的交流に伴って作り上げられてきた日本人のインドネシア認識、あるいはインドネシア人の日本認識はどういったものだろうか。題材としては、紀行文、滞在記、新聞・雑誌記事、広告、各種語学書等、幅広く「言葉」や「表現」を取り上げ、「認識」の構造を捉えることとしたい。
	アジア言語文化特論ⅢA	田中悟 准教授	【政治学・宗教学】 東アジアの地域研究に関する事例研究や関心分野の研究動向についての正確な知識を得ることを目的として、各種の文献資料を取り上げ、その内容について考察・検討を加える。具体的には、履修者の関心に基づいて選定した東アジア地域研究に関する文献資料を講読し、討議する。
	アジア言語文化特論ⅢB	田中悟 准教授	【政治学・宗教学】 東アジアの地域研究に関する事例研究や関心分野の研究動向についての正確な知識を踏まえつつ、自身の研究構想をブラッシュアップすることを目的として、履修者の関心に基づいて選定した東アジア地域研究に関する文献資料を講読し、討議する。また、履修者自身が自身の先行研究となるべき研究論文を選び、報告を行ったうえで、自身の研究構想をまとめ、報告を行う。
	アジア言語文化特論ⅣA	古矢篤史 准教授	【日本文学】 近代日本文学におけるアジア表象を考察する。明治期から戦後にかけて、日本の植民地となったアジア諸地域が、文学のなかでどのように描かれていたかを考える。取りあげる作家は、芥川龍之介、谷崎潤一郎、横光利一などを予定している。また、アジア諸地域出身の作家による日本語作品についても論じたい。近代のアジアをめぐる日本語・日本文学についての知識や理論を得ることが目的となる。
	アジア言語文化特論ⅣB	古矢篤史 准教授	【日本文学】 「アジア言語文化特論ⅣA」に引き続き、近代日本文学におけるアジア表象を考察する。明治期から戦後にかけての近代日本文学におけるアジア表象を体系的に捉えつつ、受講者の関心に応じて個別のテキストを選択し、当該時期の文学の問題について討議する。近代のアジアをめぐる日本語・日本文学について論考をまとめ、報告を行う。

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
アジア言語文化	アジア言語文化特論Ⅴ A	橋本正俊 教授	【日本語学・日本文学】 日本古典文学に関する様々な文献を取り上げて論じる。 特に平安時代から中世にかけての作品を取り上げ、その日本語表現、文学表現について論じる。あわせて、中世の辞書や、研究文献も取り上げて、日本語・日本文学研究の問題点について考察する。中世の文学作品を通して、日本語・日本文学についての正確な知識を得ることを目的とする。
	アジア言語文化特論Ⅴ B	橋本正俊 教授	【日本語学・日本文学】 日本古典文学に関する様々な文献を取り上げて論じる。 特に室町時代から江戸時代にかけての作品を取り上げ、その日本語表現・文学表現について論じる。あわせて、辞書や、研究文献も取り上げて、日本語・日本文学研究の問題点について考察する。文学作品を通して、日本語・日本文学についての正確な知識を得ることを目的とする。
	アジア言語文化特論Ⅵ A	門脇薫 教授	【日本語教育学】 第2言語としての日本語の習得研究の観点から、日本語教育に関わる種々の問題について考察する。具体的には、第2言語習得(Second Language Acquisition)の理論、外国人学習者の日本語の習得過程、日本語の習得研究、第2言語習得研究と日本語指導等について取り上げる。
	アジア言語文化特論Ⅵ B	門脇薫 教授	【日本語教育学】 第2言語としての日本語の習得研究の観点から、日本語教育に関わる種々の問題について考察する。具体的には、第2言語習得(Second Language Acquisition)の理論、外国人学習者の日本語の習得過程、日本語の習得研究、第2言語習得研究と日本語指導等について取り上げる。
	アジア地域文化特論Ⅰ A	森類臣 准教授	【韓国・朝鮮の理解】 朝鮮半島の近現代史・現代社会・大衆文化について学ぶ。歴史的もしくは社会科学の視座からコリア (Korea) を捉え理解することが本授業の目的である。授業は、テーマごとに講義形式と発表・議論のセットで行う。
	アジア地域文化特論Ⅰ B	森類臣 准教授	【韓国・朝鮮の理解】 本授業では朝鮮民族の対外認識を踏まえたうえで、分断体制出現以降の南北朝鮮関係と国際関係について学ぶ。歴史的もしくは社会科学の視座からコリア (Korea) を捉え理解することが本授業の目的である。授業は、テーマごとに講義形式と発表・議論のセットで行う。
	アジア地域文化特論Ⅱ A	上田達 教授	【文化人類学】 文化人類学における理解がどのようなものであるかを示すことを、講義の主たる目的とする。まず、初期の文化人類学から今日にいたる学問の歴史を俯瞰しつつ、そのなかで採用されてきた理解の枠組みを素描する。そのうえで、受講者の関心も聞きながら具体的なトピックを選んで、その民族誌的な成果や意義について検討する。
	アジア地域文化特論Ⅱ B	上田達 教授	【文化人類学】 文化人類学の今日的な意義を概観することを講義の主たる目的とする。特にアジア地域を対象とした民族誌的成果を紹介しながら、それらの知見がどのような視点を提供しうるかを検討する。概ね政治、開発、都市化を中心的なテーマとするが、受講者の関心も聞きながら文化人類学の射程について考えていきたい。適宜、映像資料も用いて理解の一助とする。
	アジア地域文化特論Ⅲ A	岩間 香 (非常勤講師)	【美術史】 奈良時代から桃山時代(7～16世紀)にいたる日本美術の流れを、文献講読と作品鑑賞を通じて学ぶ。毎回代表的な美術作品を取り上げ、主題、技法、社会背景などについて考察する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。寺院や美術館を実地見学する場合がある。

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
アジア言語文化	アジア地域文化特論Ⅲ B	岩間 香 (非常勤講師)	【美術史】 現代の日本文化に大きな影響を与えた江戸時代（17～19世紀）の絵画について、文献講読と作品鑑賞を通じて学ぶ。毎回代表的な美術作品を取り上げ、作品の主題、技法、社会背景などについて考察する。美術を通じて、日本人の考え方や感性に対する理解を深めるのが目的である。寺院や美術館を実地見学する場合がある。
	アジア地域文化特論Ⅳ A	赤澤春彦 教授	【日本史】 日本の歴史を理解すること、また文献史学の方法論を修得することを目的とする。日本の歴史にかかる重要な論点を整理・評価し、古文書や古記録などの具体的な史料に基づいて検討する。本講義では、古代から中世の代表的な学説をいくつか取り上げて講読し、その学説にかかわる史料を取り上げて再検討する。
	アジア地域文化特論Ⅳ B	赤澤春彦 教授	【日本史】 日本の歴史を理解すること、また文献史学の方法論を修得することを目的とする。日本の歴史にかかる重要な論点を整理・評価し、古文書や古記録などの具体的な史料に基づいて検討する。本講義では、近世から近代の代表的な学説をいくつか取り上げて講読し、その学説にかかわる史料を取り上げて再検討する。
	アジア地域文化特論Ⅴ A	金子正徳 准教授	【文化人類学／地域研究】 「文化人類学」・「地域研究」に関する講義、および、「文化人類学」・「地域研究」における研究成果物（民族誌や学術論文など）の精読を通じて、現代の文化・社会を読み解く力をつける。
	アジア地域文化特論Ⅴ B	金子正徳 准教授	【文化人類学／地域研究】 「文化人類学」・「地域研究」に関する講義、および、「文化人類学」・「地域研究」における研究成果物（民族誌や学術論文など）の精読を通じて、現代の文化・社会を読み解く力をつける。
	アジア言語文化研究総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	赤澤春彦 教授 上田達 教授 浦野崇央 教授 門脇薫 教授 橋本正俊 教授 田中悟 准教授	入学当初に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各指導教員の指導のもとに研究倫理のあり方を理解し、各自が研究資料の調査・収集等の予備的作業を行い、討論・発表を通じて、研究遂行に必要な諸技能を修得し、修士論文を完成させる。 ※研究・論文指導を含む

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
共通授業科目	上級英語Ⅰ（教職対象）	鳥居祐介 教授	英語で執筆された先行研究や一次資料を読み、質疑応答を行い、アカデミックな英文エッセイを執筆する技能を養う。教材は受講生と協議の上、教員の指導分野の範囲内で受講生の研究テーマと英語力レベルに合致したものを選択する。
	上級英語Ⅱ（教職対象）		
	上級中国語Ⅰ	中西正樹 教授	自然な中国語対話の運用力とより深い中国語理解力の向上を目指す。講義の素材は新聞雑誌やウェブサイトなどから選び、文法、語彙、発音を詳細に吟味する。文法に関しては基本中国語文法の枠を超え微細な意味の違いに文法がどのように反映しているか、また新生語、流行語の実例を考察する。
	上級中国語Ⅱ		
	上級スペイン語Ⅰ	担当者未定	
	上級スペイン語Ⅱ		
	上級インドネシア・マレー語Ⅰ	浦野崇央 教授 上田達 教授	インドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポール、東ティモール等で使われているインドネシア・マレー語は、それぞれの国で国語・公用語と位置づけられ、使用人口は中国語、スペイン語、英語について世界第四位である。この授業ではインドネシア・マレー語の高度かつ実践的な運用の向上を目指す。
	上級インドネシア・マレー語Ⅱ		
	国際政治特論Ⅰ	田中悟 准教授	国際政治学に関連する基礎的文献を選定し、読み進めていく。その上で、各人の関心に応じて研究テーマを設定し、修士論文執筆を見据えた研究計画のプロトタイプを作成して、問題点を修正しながら練り上げていくことを目指す。
	国際政治特論Ⅱ		
	国際経済特論Ⅰ	杉本篤信 准教授	グローバル化の進む中、国際経済の動きを見ることなく、日本経済を語ることは不可能である。例えば、現在の日本の問題「景気」「国際収支」「財政収支」が、どのような問題で、どのように海外の経済と関連しているかを考察するためには、金融、貿易の基本的理論の理解が不可欠となる。経済理論の理解とそれを通じて現実の経済を分析することを目的とする。
	国際経済特論Ⅱ		

国際言語文化研究科 修士課程

【国際言語文化専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
共通授業科目	異文化理解Ⅰ	中島直嗣 教授 中西正樹 教授 加来奈奈 准教授 金子正徳 准教授 古矢篤史 准教授 船本弘史 准教授 森類臣 准教授	人はそれぞれ固有の文化に育まれて自己形成する。そのため見知らぬ文化に接触すると、驚愕、感嘆、憤怒、等々、さまざまな心理的反応を示すことになる。異文化に対する理解と認識のあり様を、異なる学問領域の視点に立って検討する。 『言語と文化』 〔中島 直嗣〕 英語および英語圏の国や地域を研究対象とし、主に社会言語学の観点から言語と文化の関係を考察する。また、英語の各方言の変化とその背景にある歴史的・社会的事象を確認しながら、現状および今後の推移についても考えてみたい。 『漢字文化の広がり』 〔中西 正樹〕 中国の言語を記述するために作られた漢字はこれまで東アジアの文化にどのような影響を与え、またそれ自身はどのように変容してきたのだろうか。漢字との付き合いを見つめ直す作業を通して異文化理解とは何かを考える。 『異文化としてのヨーロッパ』 〔加来 奈奈〕 異文化としてのヨーロッパを過去の視点から読み解いていき、ヨーロッパの社会・文化・政治についての理解を深めていきます。Ⅰではヨーロッパの全般に関して広く考察する。Ⅱでは、ヨーロッパの十字路とも呼ばれるベルギーに注目し、より深い考察を行う。
	異文化理解Ⅱ		『文化人類学的な観点からみる文化の理解と主体について』 〔金子 正徳〕 文化人類学的な観点から、そもそも「文化」とは何か、「文化」の主体は誰か、「文化」を研究することの課題などのほか、多様な文化動態について学ぶ。 『近代日本文学における翻訳』 〔古矢 篤史〕 近代日本文学における「翻訳」について考察する。具体的には、明治から戦後にかけて、海外から翻訳された作品を取りあげ、その歴史的あるいは文化的な意義について議論する。翻訳が異文化理解において重要な営みであることを確認することが目的となる。 『テキストとコンテキスト』 〔船本 弘史〕 言語使用によって産出されるテキストは、自己と他者の対話に介在する「環境世界」と「精神世界」からなるコンテキストとの相互作用からその「ありよう」を捉えることができる。このテキストとコンテキストのインターフェースについてジャンル理論とレジスター理論を手掛かりに考察する。 『社会学のキーワードと事例から考える「異文化理解」』 〔森 類臣〕 社会学上のいくつかの重要なキーワード（例えば「アイデンティティ」「エスニシティ」「ナショナリズム」「グローバリズム」）と事例研究を通して「異文化理解」とは何かを考えていく。

経済経営学研究科 修士課程

【経済学専攻】

専攻分野	研究指導教員		
国際経済	郭 進 教授	-	-
地域経済	植杉 大 教授	野長瀬 裕二 教授	久保 貞也 准教授
観光経済	朝田 康禎 准教授	-	-
経学基礎理論	小塚 匡文 教授	原田 裕治 教授	柳川 隆 教授

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
国際経済	国際経済特論	郭 進 教授	本講義では、まずリカードの比較生産費説からヘクシャー＝オリー＝サミュエルソン・モデルにいたる国際貿易の基本理論を考察し、その後、現実の経済に対するインプリケーションを論じる。また、講義の後半では、現実の貿易がいかなる原理及び手続きによって行われているのかについても考察する。講義を通じて論じられる主たる概念・用語は、比較優位、貿易利益、交易条件、要素賦存、さらには信用状、船積書類、為替オペレーションである。
	国際協力特論	村瀬 憲昭 准教授	経済のグローバル化の進展により、主に開発途上国において格差や貧困の問題が顕在化しており、国際社会の安定化に向けてこれらの問題への対処が急ぎ求められている。本講義では、国際開発協力の歴史や開発経済学の理論、異なる開発協力主体（国際機関、先進国、非政府組織（NGO）や社会的企業などの民間組織）による開発協力の特徴、協力対象となる地域や分野の現状、地球環境問題など、様々な切り口から開発途上国が抱える課題と国際協力の実態について講義する。そして、開発途上国が抱える様々な問題とそれに対処する国際協力の意義について、議論を通じて理解を深めることを目的とする。
	国際資源・環境経済特論	野口 義直 准教授	21 世紀に入り、地球温暖化問題をはじめとする環境問題の深刻化によって化石エネルギーから自然エネルギーへのシフトが始まっている。このエネルギーシフトに伴い、風力発電、太陽光発電、バイオ燃料などの自然エネルギー産業の成長や、自動車産業における電気自動車への転換、これらの基幹技術となる蓄電池産業の成長など、技術革新に伴う産業構造の再編が開始されている。本特論では、環境問題と資源エネルギー問題に対応する企業の技術革新と産業構造の再編について、国際的な動向を踏まえて講義する。
	国際企業経営特論	畠山 俊宏 准教授	企業の海外進出は活発に行われており、グローバル経済における多国籍企業の重要性はますます高まっている。このような多国籍企業を対象とした研究分野が国際経営論である。国際経営論は、企業の多国籍化要因を対象とした海外直接投資論から始まった。現在では、戦略、マーケティング、イノベーションなど経営学の様々な領域と密接に関連しながら発展を続けている。本講義では、学生による報告と受講者全員が参加した討論を通じて国際経営論に関する理論の発展やマーケティング、生産、研究開発などの職能の国際化要因について学習する
	国際マクロ経済学特論	杉本 篤信 准教授	日本経済、政策を考察するためには、海外との様々な取引も考慮しなければならない。そのためには、貿易、国際金融などの仕組み、制度、またその理論を理解することが必要となる。本特論では、特にマクロ経済学の観点から、基本的な国際収支や外国為替の基礎的な理論と制度を講義し、国内経済、世界経済の動向を分析できるようにする。
	国際経済総合演習 Ⅰ～Ⅳ	郭 進 教授 村瀬 憲昭 准教授 杉本 篤信 准教授 野口 義直 准教授 畠山 俊宏 准教授	総合演習Ⅰでは、国際経済の基礎理論を発展学修しながら各自の研究テーマ・研究計画に沿って、国際経済特論、国際協力特論、国際資源・環境経済特論、国際企業経営特論、国際マクロ経済学特論の諸分野のうちの1つを、各々専門分野の研究者の指導の下に、研究を開始する。特に、本演習Ⅰは今後2年間の指導計画を実施する準備段階であり、各指導研究者と研究の方向と方法について議論を深めることに重点を置く。 総合演習Ⅱは、総合演習Ⅰで得られた基礎的分析力の上に、さらにディスカッション・文献研究等を通して各自の研究テーマを深め、応用する能力を養う。 総合演習Ⅲは、総合演習Ⅰ、Ⅱで得られた知識・分析力をさらに深め、指導研究者の指導に基づいて、修士論文作成の準備に取りかかる。 総合演習Ⅳは、各指導研究者の下、文献引用・参考文献等、適切な選択をしたうえで、各自のテーマを自分の視点で論文として完成することを目指す。

経済経営学研究科 修士課程

【経済学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
地域経済	地域経済特論	植杉 大 教授	グローバル化と情報化が進展する中、様々なデータソースを活用した都市・地域レベルでの経済実証分析の重要性が増している。本講義では、地域経済に関する基礎理論を学ぶとともに、様々な都市や地域の現状を踏まえ、地域経済の自立的でサステイナブルな発展について究明していく。特に地域空間データを用いた分析手法について、Python を利用しながらコードベースで実践的に学んでいく。
	中小企業特論	野長瀬 裕二 教授	中小企業論の理論研究、事例研究の両面に配慮し講義を行う。第一に、日本経済における中小企業の位置付け、役割、特徴について論じる。 第二に中小企業の直面する諸課題を取り上げて検討する。第三に中小企業研究に必要な調査について講義していく。 中小企業の新規創業、第二創業による可能性についても、事例研究を通じてグローバルな観点から明らかにしていく。
	地域情報システム特論	久保 貞也 准教授	本特論では、地域社会における情報活用を一つの情報システムと捉えて、その現状の理解と進むべき姿の検討を行なう。具体的には、自治体の経営活動における情報化と市民活動の活性化に関わる情報化についての事例紹介とそれらに関する議論を行うとともに、情報化の発展段階と地域情報化活動の関係性について考察しながら講義を行う。さらに、受講生が興味を持った事例について、先行研究との比較、分析を行い、情報化レベルの測定やこれからの課題についても理解させる。
	地域保健医療特論	田井 義人 教授	本特論では、経済発展を支える社会保障について、すべての国民にサービスを提供する保健・福祉（介護）・医療分野を取り上げ、地域経済活性化のひとつの方法論として、これらのサービス連携の必要性を考察し、具体的な取り組みの方向性を議論する。保健、福祉（介護）、医療に関する専門書を紹介し、専門書の精読によって興味ある内容について、書評を提出あるいは発表を行う。それらを基に具体的な取り組みとして、必要な制度設計はどうあるべきか等を議論し明らかにしていくことを目的とする。
	地域経済総合演習 I～IV	植杉 大 教授 野長瀬 裕二 教授 田井 義人 教授 久保 貞也 准教授	総合演習Ⅰでは、各自の研究テーマ・研究計画に沿って、地域経済学、中小企業論、地域情報システム論の中から1つを選び、各専門分野の研究者の指導の下に、研究を開始する。 総合演習Ⅱでは、総合演習Ⅰの基礎の上に、さらに研究中間報告、ディスカッション等を通じて、各自の研究テーマを深めていく。 総合演習Ⅲでは、総合演習Ⅰ・Ⅱの基礎の上に、さらに研究中間報告、ディスカッション等を通じて、各自の研究テーマを深めていく。 総合演習Ⅳでは、総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの成果の上に、先行研究を踏まえて、独自の視点から考察を進め、修士論文を完成させる。

経済経営学研究科 修士課程

【経済学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
観光経済	観光産業特論	朝田 康禎 准教授	観光産業は第3次産業であるサービス業に属するが、観光産業自体は、独立した特定の産業とはみなされていない。旅行や観光サービスを提供するさまざまな産業から構成されている、いわば異質の産業から成り立っている産業の複合体が観光産業といえよう。本講義は、サービス経済化の進展の経緯や背景を踏まえながら、観光産業を支えるのはどのような産業か、その実態や内容を明らかにしていく。
	レジャー産業特論	持永 政人 教授	平均寿命の伸長と労働時間の短縮にともない、生涯生活時間における余暇時間は30万時間を超えるとも言われ、人生の大きな領域を占める余暇活動の在り方が近年改めて問われている。本特論では日本人の余暇活動の特徴やその市場について概括的に理解を深めた上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げ、その意義や重要性、今後のあり方を考えていく。またレジャー関連企業の事例研究や討論により、より具体的な検討を加えていくものとする。
	サービス・マネジメント 特論	野村 佳子 教授	経済全体におけるサービスの影響はますます大きくなっており、サービスについて知識を深めることは業界を問わず有益である。本特論では、サービスの本質や戦略、プロセスと評価等、サービスについて体系的に論じ、高品質なサービスを提供するための仕組みを考えていく。また、サービスの概念と現場との関連を理解させることを目的として、事例研究や討論なども行う。
	観光経済総合演習 I～IV	持永 政人 教授 野村 佳子 教授 朝田 康禎 准教授	近年の外国人観光客の増加ぶりは激しく、経済に関するトピックの中で観光は最も話題になるものの1つとって過言ではない。一方、短期間の急激な変化であるために、外国人観光客の受け入れ体制が十分整備されていないというような問題点が指摘されたり、一過性のブームに終わるというように理解されていたり、観光客の増加ぶりに社会が追いついていない側面がある。この演習では、まず、観光に対する資料や文献を正しく理解するための基礎知識を習得する。次に、フィールドワーク等の調査を行い、客観的かつオリジナルなデータを備えた分析の手法を習得する。2年次は1年次で行った調査、分析、レポートを元にして修士論文を完成させる。

経済経営学研究科 修士課程

【経済学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
経済学基礎理論	経済思想史特論	未 定	経済思想は経済学・経営学の母体であると同時に、理論を政策・実践と結びつけるリンクをなしている。それを正確に把握するためには、理論・歴史・政策の3面にわたる視野が必要になる。この授業では、1. 経済思想史の方法論、2. 経済思想の諸類型、3. 経済思想の政策・実践への結びつき方、について例をあげて解説し、経済思想史研究の手引とする。なお、参加者の関心によって、社会学・経営学・心理学・進化理論などの経済思想の関連についても触れたい。
	社会経済学特論	原田 裕治 教授	社会経済学は、経済を、社会的制度に埋め込まれたものとして捉えると同時に、時間の中で進化してゆくものとして捉える。そうした観点を踏まえ、本講義では、日本経済を中心に、歴史的に形成された諸制度を各位相に分け、それぞれの特性を明らかにしながら、資本主義体制を体系的に学習する。
	計量経済学特論	小塚 匡文 教授	計量経済学とは、数学、統計学、経済学を融合した学問分野で、経済学の理論モデルの妥当性を検証するための諸手続きを学ぶものである。この講義では、最小二乗法といった基本的な手法だけでなく、質的選択モデル、時系列分析、パネルデータ分析といった、より進んだトピックを扱う。また、適宜パソコンによる実習を実施する。これらの学習を通して、実際に修士論文作成に活用できるようになることを到達目標とする。
	理論経済学特論	植杉 大 教授 柳川 隆 教授	理論経済学特論では、標準的なテキストを用いてミクロ経済学の基礎理論とその応用について学ぶ。本授業では特にミクロ経済学のなかでもよく用いられるゲーム理論に着目し、相互依存関係にある個人や企業や政府の戦略と均衡についての基礎理論を学び、さらにゲーム理論を用いて人々や経済の動きを理解できるようになることを目指す。
	経済学基礎理論総合演習 I～IV	小塚 匡文 教授 原田 裕治 教授 柳川 隆 教授	経済学基礎理論総合演習では、経済学の基礎理論を確認・発展学修させながら、各自の研究テーマ・研究計画に沿って、社会経済学、計量経済学、産業組織論の諸分野のうちの1つを、各々専門分野の研究者の指導の下に、研究を行う。

経済経営学研究科 修士課程

【経営学専攻】

専攻分野	研究指導教員		
企業経営	林 正浩 教授	武居 奈緒子 教授	鶴坂 貴恵 教授
会 計	朴 景淑 教授	岩坪 加紋 教授	-
経営情報	堀井 千夏 教授	針尾 大嗣 教授	樋口 友紀 准教授

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
企業経営	経営戦略特論	未定	未定
	経済経営史特論	未定	未定
	経営管理特論	未定	未定
	人的資源管理特論	西之坊 穂 准教授	本特論の到達目標は、経営学の中でも組織行動論と人的資源管理論の研究により、社会に貢献できる人材を育成することである。本特論では、組織行動論と人的資源管理論の2つを大きな柱として学習する。まず、組織行動論と人的資源管理論の違いを理解することから始める。次に、古典を中心とした文献レビューを熟読し、各種理論を理解した上でディスカッションを中心に講義を行う。また、論文の書き方を理解するために、分析パラダイム（機能主義パラダイムとサーベイリサーチ）および分析手法を学習し、理論構築の方法を学習する。これらの基礎を身につけた上で、企業の事例を理論で説明する学習を重ねることで、理論と実践の理解を促進する。
	技術経営特論	未定	未定
	経営組織特論	未定	未定
	マーケティング特論	武居 奈緒子 教授	マーケティングは、20世紀初頭のアメリカにおいて誕生し、1950年代になって日本に導入された比較的新しい学問である。しかしながら、企業行動を分析するのに不可欠なスキルとなってきた。このマーケティング特論では、マーケティングについての文献を輪読する。そして、担当を決めて、毎回、マーケティングのホットトピックについて報告するとともに、皆でディスカッションしていく。そうすることで、マーケティングに関する分析枠組み、専門用語、基本的知識の習得を目指す。
	ベンチャービジネス特論	林 正浩 教授	築堤の専門性の高い分野の知識だけではなく、イノベーションを経営的視点で広く捉えられる人材が求められている。これらイノベーターにとって必要な企業経営の知識を、ベンチャー事業（新規事業）の視点に立ち、経営戦略・技術戦略・知財戦略・マーケティング戦略、財務戦略など実践的な知識を学び、挑戦意欲のある次世代のイノベーターを目指す。
	流通システム特論	鶴坂 貴恵 教授	流通システムはビジネス社会を支えるため重要な役割を担っている。情報技術の発展により、流通システムは高度化をしているが、その基本的理論を理解し、メカニズムを解明することを目的とする。
	企業経営総合演習Ⅰ～Ⅳ	林 正浩 教授 武居 奈緒子 教授 鶴坂 貴恵 教授 西之坊 穂 准教授	入学当初に提出した各自の研究テーマと研究計画を踏まえ、各々専門の研究者の指導の下、大学院生として各自の研究テーマに沿った指導を受ける。特に、演習Ⅰは、今後2年間の研究計画を実施する準備段階であるため、各自の研究資料の調査と収集など、予備的作業を行う。各研究指導者と徹底的に研究テーマと研究方法についてディスカッションを重ねることが重要になる。 尚、初回の授業で、大学院生として身につけるべき研究活動における不正防止のため、研究倫理教育を併せ実施する。 総合演習Ⅱは、総合演習Ⅰを基礎として、各自が設定した課題について調査・研究を継続する。さらにディスカッション・文献研究を通して、より次元の高い研究方法の習得と研究能力の向上に努める。 総合演習Ⅲは、総合演習Ⅰ・Ⅱの内容をさらに調査・研究を深め、各指導教員をもとに、修士論文を作成する。 総合演習Ⅳは、総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに基づき、各自が設定した課題に対して、参考文献、研究方法等、適切に選択した上で、各指導教員のもとに、修士論文を完成させる。

経済経営学研究科 修士課程

【経営学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
会計	財務諸表特論	呉 重和 教授	財務諸表を理解すること、もう少し具体的にいえば、企業の一定期間の活動の成果とその結果を反映する財務諸表の勘定科目および金額の意味内容を自分なりに十分理解することは、さほど容易なことではない。本特論では、会計数値の背景にある意味を丹念に読み取ることで、その背後にある企業の実態に迫る力ないしノウハウの体得を目指す。換言すると、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書という基本財務諸表が反映する財務情報とそれらの情報の分析方法について習得し、理解することが、本特論の目的である。
	会計情報特論	未定	未定
	税務会計特論	未定	未定
	管理会計特論	朴 景淑 教授	管理会計における戦略的ツールの理論と実際について論じる。まず、管理ツールの理解のため管理会計論に関する文献を輪読し、テーマ別に担当者を決めてプレゼンしてもらい、ディスカッションを行う。さらに、各ツールが実務ではどのように活用されているかを Case Study を用いて考察することで、今後の経営管理ツールのあり方について考えさせる。
	原価計算特論	三木 僚祐 准教授	原価計算は、その成立時から現在にいたるまで、その時々々の経営管理に必要な経済的情報を提供するため発達してきた。つまり、原価計算の利用目的は、それぞれの時代における企業環境の変化によって、変容しているのである。近年、原価計算の利用目的として特に注目されるようになっているのが、「経営戦略の策定と遂行」である。本特論では、経営戦略の策定と遂行のための原価計算に焦点をあてて講義する。
	企業金融特論	岩坪 加紋 教授	本特論では、企業の金融活動について論じる。具体的には、金利や不確実性、情報の非対称性など、金融の基本的な考え方を説明した上で、ポートフォリオ理論、CAPM、オプションなど、資産の理想的な組み合わせや証券価格の決定について理解させる。その上で、資本コストや投資の意思決定、資金調達行動、配当政策、リスク・マネジメントなど、企業の金融活動について理解させる。また、これに加えて企業の重要な資金源である金融仲介機関の理論と実際についても説明する。
	会計総合演習Ⅰ～Ⅳ	朴 景淑 教授 岩坪 加紋 教授 呉 重和 教授 三木 僚祐 准教授	総合演習Ⅰは、会計学（ファイナンスを含む）を専攻する各指導教員の指導のもと、院生各自の研究テーマに沿って、研究倫理のあり方、具体的な修士論文のテーマ、研究に必要な調査および関係資料の収集方法、必要となる分析手法等に関して理解を深め、修士論文の作成に向けた一連の技能を修得する。とくに演習Ⅰでは、今後2年間の指導計画を実施する準備段階であり、上記の各論点につき、各指導研究者と綿密に議論することが重要である。 総合演習Ⅱは、総合演習Ⅰを基礎に、報告と討論を通じて、各院生が選択した課題に関連した基礎知識と分析手法の修得に務める。 総合演習Ⅲは、総合演習Ⅰ～Ⅱを基礎に、報告と討論を通じて、選択した課題に関する専門知識と分析手法のさらなる向上に努める。 総合演習Ⅳは、総合演習Ⅰ～Ⅲで修得した専門知識と分析手法を基礎に、各指導教員の指導のもと、修士論文の完成を目指す。

経済経営学研究科 修士課程

【経営学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
経営情報	情報デザイン特論	堀井 千夏 教授	高度情報化社会では、経営、医療、教育、芸術などのあらゆる分野において、情報をデザインし、活用することが欠かせない。本特論では、情報の効果的・効率的なデザインに必要なマルチメディア技術の理論と実際について論じる。具体的には、メディアデザインの基礎知識、画像処理やコンピュータグラフィックスを用いたコンテンツの制作、実社会における応用事例について解説および実習を行う。また、最新のマルチメディア技術について紹介し、情報デザインの基本的な考え方に加えて、その有用性や問題点、今後の展望などについて論じる。
	マネジメントサイエンス特論	未定	未定
	マーケティングサイエンス特論	樋口 友紀 准教授	マーケティング分野におけるマーケティング・リサーチ手法を概説し、その利用方法の習得を目標とする。具体的には、データの収集方法やアンケートの設計法にはじまり、データ収集によって得た情報をいかに分析し、戦略策定に活かしてゆくかを考える。分析にあたり必要となる統計学の基礎知識（記述統計、推定や検定など）や、各種の分析手法（回帰分析、分散分析、数量化理論、因子分析、コレスポンデンス分析など）の理論について学習する。
	メディア戦略特論	針尾 大嗣 教授	本特論では、企業のマーケティング施策におけるメディア・コミュニケーションの戦略策定において有用となる諸理論（広告論、消費者行動論、情報システム論）と戦略事例ならびに、メディア戦略には欠かせない顧客データの活用方法について解説する。
	ビジネスシミュレーション特論	未定	未定
	経営情報システム特論	未定	未定
	社会調査特論	未定	未定
	経営情報総合演習Ⅰ～Ⅳ	堀井 千夏 教授 針尾 大嗣 教授 樋口 友紀 准教授	経営情報総合演習では、企業および組織で扱う情報（データ）を迅速かつ的確に取得し、この情報を製品開発や市場調査、販売戦略立案などで効率かつ効果的に活用できる実践的な情報処理能力と分析能力を身に付ける。この演習を通じて、情報の収集や分析手法、処理手法、シミュレーション、システムへの実装方法などについて理論的な基盤に加えてその応用を実証的に研究する。 総合演習Ⅰでは、このための基礎知識を養うために、研究資料の調査・収集等の予備作業を行い、討論・発表を通じて研究遂行に必要な技術を修得する。 総合演習Ⅱでは、総合演習Ⅰで修得した基礎の上に、文献研究等を通じて各自が設定した研究テーマについて調査を継続し、討論・発表を通じて理解を深め、より高い研究技法の習得と研究能力を養う。 総合演習Ⅲでは、総合演習Ⅰ、Ⅱの内容をさらに精密に研究し、設定した研究テーマについて調査・研究を深め、修士論文作成の準備に取りかかる。 総合演習Ⅳでは、総合演習Ⅰ～Ⅲに基づき、基礎論文・参考文献等を適切に選択した上で各自の研究テーマを自分の視点で論文として完成させることを目指す。

理工学研究科 博士前期課程

【社会開発工学専攻】

専攻分野	研究指導担当教員名	
計画系	熊谷 樹一郎 教授	川上 比奈子 教授
	大谷 由紀子 教授	加嶋 章博 教授
	久富 敏明 教授	坂本 淳二 教授
環境系	宮本 征一 教授	樋口 祥明 教授
	水野 忠雄 教授	-
構造系	伊藤 譲 教授	柳沢 学 教授
	熊野 知司 教授	池内 淳子 教授
	西村 勝尚 教授	-

■授業科目一覧

専攻分野等	授業科目	単位数			担当者
		必修	選択	自由	
基礎科目	応用数学特論Ⅰ		2		友枝 恭子 准教授
	応用数学特論Ⅱ		2		島田 伸一 教授
	数理統計学		2		中津 了勇 教授
	力学特論		2		安井 幸則 教授
	量子物理学		2		東 武大 准教授
計画系	空間情報学特論		2		熊谷 樹一郎 教授
	形態幾何学特論		2		榊 愛 准教授
	コミュニティデザイン特論		2		大谷 由紀子 教授
	住環境計画特論		2		坂本 淳二 教授
					山根 聡子 講師
	空間デザイン特論		2		久富 敏明 教授
	住環境デザイン史特論		2		川上 比奈子 教授
	建築計画特論		2		小林 健治 准教授
	都市建築史特論		2		加嶋 章博 教授
	建築環境造形特論		2		稲地 秀介 准教授
	都市地域計画特論		2		久保田 誠也 講師
	意匠設計演習		2		川上 比奈子 教授 久富 敏明 教授 小林 健治 准教授 白須 寛規 講師
環境系	水環境工学特論		2		水野 忠雄 教授
	環境水理学特論		2		石田 裕子 教授
	沿岸環境工学特論		2		佐藤 大作 准教授
	温熱環境特論		2		宮本 征一 教授
	サステイナブル建築環境特論		2		白鳥 武 准教授
	居住環境工学特論		2		樋口 祥明 教授
	環境心理生理特論		2		竹村 明久 准教授
	建築設備計画特論		2		大橋 巧 准教授
	設備設計演習		2		宮本 征一 教授 樋口 祥明 教授 大橋 巧 准教授 榊 愛 准教授 竹村 明久 准教授
構造系	建設施工システム特論		2		熊野 知司 教授
	構造計画特論		2		西村 勝尚 教授
	鉄筋コンクリート構造特論		2		柳沢 学 教授
	構造工学特論		2		不開講
	防災工学特論		2		池内 淳子 教授
	基礎工学特論		2		寺本 俊太郎 准教授
	地盤工学特論		2		伊藤 譲 教授
	構造動力学特論		2		米田 昌弘 教授
専攻分野 共通科目	構造設計演習		2		柳沢 学 教授
	建築設計インターンシップⅠ		4		池内 淳子 教授
	建築設計インターンシップⅡ		1		池内 淳子 教授
	ゼミナール	4			
	理工学特別研究	8			
計		12	73		

(注) 授業科目内容については、本学ホームページ掲載のシラバスを参照ください。

理工学研究科 博士前期課程

【生産開発工学専攻】

専攻分野	研究指導担当教員
生産工学系・ 機械工学系	諏訪 晴彦 教授
	川野 常夫 教授
	池田 周之 教授
	堀江 昌朗 教授
電気電子工学系	奥野 竜平 教授
	井上 雅彦 教授
	堀内 利一 教授
	檜橋 祥一 教授
	神嶋 修 教授
	長島 健 教授

■授業科目一覧

専攻分野等	授業科目	単位数			担当者
		必修	選択	自由	
基礎科目	応用数学特論Ⅰ		2		友枝 恭子 准教授
	応用数学特論Ⅱ		2		島田 伸一 教授
	数理統計学		2		中津 了勇 教授
	力学特論		2		安井 幸則 教授
	量子物理学		2		東 武大 准教授
生産工学系	生産システム特論		2		諏訪 晴彦 教授
	生産加工学特論		2		不開講
	人間工学特論		2		川野 常夫 教授
	センサー工学特論		2		不開講
	システム制御特論		2		山崎 達志 准教授
機械工学系	材料力学特論		2		池田 周之 教授
	機械力学特論		2		渡邊 陽介 准教授
	熱工学特論		2		小田 靖久 准教授
	応用熱力学特論		2		石田 秀士 准教授
	流体機械特論		2		堀江 昌朗 教授
	構造工学特論		2		不開講
	熱流体力学特論		2		植田 芳昭 准教授
電気電子工学系	エネルギーシステム工学特論		2		堀内 利一 教授
	医用生体工学特論		2		奥野 竜平 教授
	知能ロボット特論		2		片田 喜章 准教授
	画像情報工学特論		2		不開講
	電子・イオンビーム工学特論		2		井上 雅彦 教授
	無線通信工学特論		2		檜橋 祥一 教授
	光物性工学特論		2		神嶋 修 教授
	電子物性工学特論		2		東谷 篤志 准教授
	固体物理学特論		2		長島 健 教授
	光デバイス特論		2		山田 逸成 准教授
	ネットワーク工学特論		2		工藤 隆則 講師
	計測工学特論		2		不開講
	分散システム特論		2		金澤 尚史 准教授
	数理工学特論		2		木村 真之 准教授
専攻分野共通科目	ゼミナール	4			
	理工学特別研究	8			
計		12	62		

(注)授業科目内容については、本学ホームページ掲載のシラバスを参照ください。

理工学研究科 博士前期課程

【生命科学専攻】

専攻分野	研究指導担当教員
分子生命科学系	尾山 廣 教授
	西矢 芳昭 教授
	中嶋 義隆 教授
	見坂 武彦 教授
生体生命科学系	西村 仁 教授
	松尾 康光 教授
	宮崎 裕明 教授
	湯浅 恵造 教授

【授業科目一覧】

専攻分野等	授業科目	単位数			担当者
		必修	選択	自由	
基礎科目	分子生物学		2		尾山 廣 教授 西矢 芳昭 教授 中嶋 義隆 教授 船越 英資 准教授
	細胞生物学		2		西村 仁 教授 宮崎 裕明 教授 湯浅 恵造 教授
分子生命科学系	分子細胞生物学特論		2		大橋 貴生 准教授 井尻 貴之 講師
	タンパク質機能学特論		2		尾山 廣 教授
	特殊環境微生物学特論		2		西矢 芳昭 教授
	構造生命科学特論		2		中嶋 義隆 教授
	細胞解析学特論		2		見坂 武彦 教授
	環境遺伝子工学特論		2		長田 武 講師
生体生命科学系	神経生物学特論		2		宮崎 裕明 教授
	細胞制御学特論		2		西村 仁 教授
	生体制御学特論		2		船越 英資 准教授 居場 嘉教 講師
	生体機能利用学特論		2		松尾 康光 教授
	個体ゲノム制御学特論		2		湯浅 恵造 教授
	環境分析学特論		2		青笹 治 教授
専攻分野共通科目	分子生命科学トピックス	2			表 雅章 教授 尾山 廣 教授 西矢 芳昭 教授 中嶋 義隆 教授 見坂 武彦 教授 長田 武 講師 船越 英資 准教授 居場 嘉教 講師
	生体生命科学トピックス	2			西村 仁 教授 松尾 康光 教授 青笹 治 教授 宮崎 裕明 教授 湯浅 恵造 教授 米山 雅紀 教授 大橋 貴生 准教授 井尻 貴之 講師
	ゼミナール	4			
	理工学特別研究	8			
	計	16	28		

(注)授業科目内容については、本学ホームページ掲載のシラバスを参照ください。

理工学研究科 博士後期課程

【生命科学専攻】

専攻分野	研究指導担当教員	研究テーマ
生命機能解析利用学	尾山 廣 教授	生理活性タンパク質の探索、機能解析、構造および機能発現メカニズムの解析と応用に関する研究
	西村 仁 教授	ゲノム編集やライブイメージングの手法を使った線虫 (<i>C. elegans</i>) における生殖 (配偶子形成、受精、初期発生) の分子メカニズムの研究
	西矢 芳昭 教授	特殊環境微生物資源の探索と産業利用に関する研究
	松尾 康光 教授	生体分子を用いたバイオ燃料電池の創製とプロトン輸送メカニズムの研究
	見坂 武彦 教授	自然環境中の微生物およびその遺伝子の動態に関する研究
	宮崎 裕明 教授	細胞内イオン環境による細胞機能制御の分子メカニズムに関する研究
	湯浅 恵造 教授	細胞応答における細胞内情報伝達の分子機構の解析とその応用に関する研究

■授業科目一覧

専攻分野等	授業科目	単位数			担当者
		必修	選択	自由	
生命機能解析利用学 分野専門科目	分子細胞発生学演習		2		西村 仁 教授
	分子機能解析学演習		2		中嶋 義隆 教授
	ゲノム制御生物学演習		2		湯浅 恵造 教授
	微生物機能利用学演習		2		西矢 芳昭 教授
	分子生態学演習		2		見坂 武彦 教授
	分子機能利用学演習		2		尾山 廣 教授
	イオン伝達物質学演習		2		松尾 康光 教授
	分子細胞生理学演習		2		宮崎 裕明 教授
専攻分野共通科目	生命機能解析利用学実習	2			尾山 廣 教授 中嶋 義隆 教授 西村 仁 教授 西矢 芳昭 教授 松尾 康光 教授 見坂 武彦 教授 宮崎 裕明 教授 湯浅 恵造 教授
	特別研究	12			
	計	14	16		

(注) 授業科目内容については、本学ホームページ掲載のシラバスを参照ください。

理工学研究科 博士後期課程

【創生工学専攻】

専攻領域	研究指導担当教員	研究テーマ
都市・建築創生領域	柳沢 学 教授	耐震安全性と持続可能性を併せ持つ架構の構造設計法
	伊藤 譲 教授	地盤材料の熱的性質の解明とその利用技術に関する研究
	川上 比奈子 教授	自然環境の動態と連動する空間デザインに関する研究
	熊谷 樹一郎 教授	空間情報に基づいた都市環境の評価
	熊野 知司 教授	建設廃棄物の再利用に関する研究
	水野 忠雄 教授	高規格水処理および廃水処理プロセスの開発
人工物創生領域	井上 雅彦 教授	固体表面分析の高分解能化と微細化
	川野 常夫 教授	福祉機器や工業製品などの人間工学的分析と評価
	諏訪 晴彦 教授	グリーン製造のための意思決定システム
	奥野 竜平 教授	生体システムの解明と福祉機器への応用
	檜橋 祥一 教授	電波の有効利用に資する無線通信技術

■授業科目一覧

専攻領域	授業科目	単位数			担当者
		必修	選択	自由	
都市・建築創生領域	都市地域計画学演習		2		不開講
	都市空間情報学演習		2		熊谷 樹一郎 教授
	環境地盤工学演習		2		伊藤 譲 教授
	環境空間デザイン学演習		2		川上 比奈子 教授
	環境工学演習		2		水野 忠雄 教授
	鉄筋コンクリート構造学演習		2		柳沢 学 教授
	応用構造材料学演習		2		熊野 知司 教授
人工物創生領域	固体表面分析演習		2		井上 雅彦 教授
	燃料電池材料学演習		2		松尾 康光 教授
	応用人間工学演習		2		川野 常夫 教授
	システム最適化演習		2		諏訪 晴彦 教授
	生体情報工学演習		2		奥野 竜平 教授
	無線通信工学演習		2		檜橋 祥一 教授
	宇宙構造物工学演習		2		不開講
特別研究		12			
計		12	28		

(注)授業科目内容については、本学ホームページ掲載のシラバスを参照ください。

薬学研究科 博士課程

【医療薬学専攻】

専攻分野	専攻領域	研究指導教員
臨床薬学	複合薬物解析学	矢部 武士
	生命融合化学分野	大塚 正人
	薬効薬理学	奈邊 健、北谷 和之
	機能形態学	倉本 展行
	薬理学	米山 雅紀
	薬物治療学	吉岡 靖啓
	医療薬学	高田 雅弘、首藤 誠
	病態医科学	辻 琢己
	病理学	尾崎 清和
	生体分子分析学	山岸 伸行
	薬学教育学	曾根 知道、奥野 智史
	臨床薬理学	河田 興
	臨床薬学	辻 敏和
健康薬学	生物系薬学分野	伊藤 潔、高松宏治
	公衆衛生学	木村 朋紀
	疾病予防学	—
医薬品開発学	化学系薬学分野	表 雅章、河合 健太郎
	薬物送達学	佐久間信至
	薬剤学	片岡 誠

薬学研究科 博士課程

【医療薬学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
臨床薬学	臨床分析学特論	小西 元美 教授 山岸 伸行 教授 小森 浩二 准教授 久家 貴寿 講師	本特論では、分析化学の原理を踏まえて、臨床現場で実際に使用されている分析機器並びに診断方法の理論と実際について論じる。具体的には、CT、PET、MRI、内視鏡など、最新画像診断機器の原理と画像解析の基本的な考え方を理解させる。また、遺伝子診断法の原理と方法を教授したうえで、遺伝子診断の有用性や今後の展望、さらに倫理的問題点について論じる。加えて、臨床現場で使用されている診断機器と基礎研究との関連を理解させる。
	臨床生化学特論	大塚 正人 教授 竹内 健治 准教授	本特論では、生化学の原理を踏まえて、臨床における生化学・栄養学の理論と実際について論じる。各種代謝異常等による病態を理解させ、その最新治療法の実践について論じる。また、臨床栄養学分野の最新情報の収集と理解を通して、効果的な薬物療法への寄与等について論じる。
	臨床病態学特論	尾崎 清和 教授 河田 興 教授 辻 琢己 准教授 吉田 侑矢 講師	疾病の病因・病態・診断を修得させることにより、総合的な観点から薬物治療に参画する知識を身につけさせる。薬物による治療計画を立案するには、これらの最新情報を常に収集・集積する必要がある。本特論では、膠原病・リウマチ・アレルギー内科、呼吸器内科、胆・肝・膵を含む消化器内科、血液内科、腎・泌尿器内科、皮膚科等で診療される疾病について、最新の基礎及び臨床情報を論じる。
	臨床症候学特論	辻 敏和 教授 田中 雅幸 准教授 長谷部 茂 特任講師	症候学とは、疾病を病因や病態がとらえるのではなく、患者の示す様々な訴えや診察所見から疾病を定義・分類して意味づけを与える方法論である。本特論では、これらの方法論や情報等の学習を通して、症候から処方医薬品の処方提案やOTCによる治療について論じる。
	臨床薬理学特論	奈邊 健 教授 北谷 和之 准教授 尾中 勇祐 講師 山口 太郎 講師	本特論では、いくつかの疾患に焦点を当て、それらの病態の分子機序、ならびにそれらの治療に用いられる薬物の分子薬理学的作用機序を論じる。また、基礎研究と臨床研究の橋渡しとなる研究（トランスレーショナル／リバーストランスレーショナルリサーチ）を紹介し、ヒトの病気の予防や治療に繋がる薬理学研究を紹介する。
	薬物療法学特論	河田 興 教授 吉岡 靖啓 教授 辻 琢己 准教授 石丸 侑希 講師 宇野 恭介 講師	本特論では、解剖学、生理学、薬理学及び薬物治療学の基礎知識をもとに、実際に臨床現場において実施されている各種疾患に対する薬物療法とその問題点について論じる。薬の有効性と安全性を確保しつつ、医薬品の適正使用を実施するための知識と技能並びに緩和医療に必要な薬物療法について論じるとともに、緩和ケアに必要なコミュニケーションスキルを身につけさせる。
	医薬品管理学特論	高田 雅弘 教授 菊田 真穂 教授 首藤 誠 准教授 向井 啓 准教授	医薬品の正確かつ円滑な供給や医薬品の適正使用は、医療現場における薬物治療及びリスクマネジメントの観点からきわめて重要な課題である。本特論では、有効な薬物治療や医療過誤の回避などに必要な医薬品管理や医薬品情報管理について事例を通して論じる。また、医療の更なる向上を目指した医薬品管理や医薬品情報管理について考察させる。
	臨床漢方医療薬学特論	矢部 武士 教授 荒木 良太 准教授 伊藤 優 講師	西洋薬（新薬）での治療が困難な種々の疾患に対して、漢方薬が一定の治療効果を示す場合があり、その有用性から現代医療の臨床現場で今なお多用されている。本特論では、漢方医学の基本的概念について理解を深めるとともに、現在汎用されている漢方処方による治療の実践について学習させる。また、漢方処方の治療メカニズムについて学習し、漢方薬を用いた新たな疾患治療の可能性についても考察させる。
	精神医療薬学特論	倉本 展行 教授 米山 雅紀 教授	精神科領域において求められる薬剤師の専門性とは、精神疾患、向精神薬、精神保健福祉などに関する知識とその知識を臨床薬剤師業務に反映する技術である。本特論では、まず向精神薬の基本的事項を学んだのち、向精神薬等による適切な薬物治療を支援するための専門的な技術を論じる。さらに、新規向精神薬についての臨床データを学習することにより最新の精神科薬物療法について論じる。
	薬学教育学特論	曾根 知道 教授 岩崎 綾乃 講師 奥野 智史 教授 上田 昌宏 講師 串畑 太郎 講師	大学院を修了する薬剤師は、社会に出た後に先導的な薬剤師として他者を指導し、後進を育成することが求められる。そのためには、教育プログラムを策定し、他者を責任ある主観に基づいて評価する高い教育能力が必要となる。本特論では、将来、薬剤師教育の先導者として教育システムの構築・改革に携われるレベルの教育理論および教育研究手法を論じると共に、社会構成主義的学習観に基づいた実践的教育能力の養成を行う。

薬学研究科 博士課程

【医療薬学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
臨床薬学	臨床薬学演習	大塚 正人 教授 尾崎 清和 教授 河田 興 教授 菊田 真穂 教授 倉本 展行 教授 小西 元美 教授 曾根 知道 教授 高田 雅弘 教授 辻 敏和 教授 奈邊 健 教授 矢部 武士 教授 山岸 伸行 教授 吉岡 靖啓 教授 米山 雅紀 教授 荒木 良太 准教授 小森 浩二 准教授 北谷 和之 准教授 首藤 誠 准教授 竹内 健治 准教授 田中 雅幸 准教授 辻 琢己 准教授 西田 健太郎 准教授 向井 啓 准教授 石丸 侑希 講師 伊藤 優 講師 岩崎 綾乃 講師 宇野 恭介 講師 尾中 勇祐 講師 久家 貴寿 講師 山口 太郎 講師 吉田 侑矢 講師	医療現場の高度な薬物療法に対応できる薬剤師あるいは高度な薬物療法を研究・実践できる薬剤師となるために、連携医療機関・薬剤部での薬物治療カンファレンス等による実践的な演習を実施する。また、連携医療機関での感染対策チームや緩和医療チームでのカンファレンスでの短期演習も必要に応じて実施する。
健康薬学	公衆衛生学特論	木村 朋紀 教授 中村 武浩 講師	本特論では、予防薬学の原理を踏まえて、環境化学物質、栄養素、生体内物質など、物質の側から病因を究明し、疾病予防に活用するための高度な理論と実践について論じる。まず、環境疫学を中心に疫学方法論、実践方法、データ処理にかかる統計学及び疫学研究事例について論じる。次に、環境化学物質による健康影響とその作用機構解析事例を紹介し、高精度な環境リスク推定の可能性について考察させる。
	食品安全学特論	中尾 晃幸 准教授 角谷 秀樹 講師	本特論では、食品衛生学及び臨床栄養学の原理を踏まえて、それらの理論と実際について論じる。内容としては、国の食品安全委員会等で問題視されている食品中の種々の健康有害因子に関する最新情報の収集とその理解・対策法、並びに生活習慣病に対する栄養管理・指導法について学習させる。また、高齢化社会を迎えて、ますます増加することが予測される服用薬物と健康食品・サプリメントとの併用による健康影響等の理論と実際についても論じる。
	感染予防医療薬学特論	伊藤 潔 教授 高松 宏治 教授 桑名 利津子 講師	本特論では、感染症学及び微生物学の原理を踏まえて公衆衛生及び臨床における感染症の予防と医療の理論と実際について論じる。また、遺伝子レベル・分子レベルからみたヒトと病原微生物の関わりについて論じる。さらに、病原体の検出・防除や、感染症の予防・治療に用いる薬剤やワクチンの最先端について論じる。
	健康薬学演習	伊藤 潔 教授 奥野 智史 教授 木村 朋紀 教授 高松 宏治 教授 中尾 晃幸 准教授 角谷 秀樹 講師 桑名 利津子 講師	本演習では、連携医療機関での感染対策チームや栄養サポートチームなどのカンファレンス等への参加を通して、医療現場での健康薬学分野の理解を深める。また、栄養・機能性食品等の疫学調査の実例を通して、健康薬学分野の理解を深めるとともに、同分野の研究手法を修得する。

薬学研究科 博士課程

【医療薬学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
医薬品開発学	医薬品化学特論	表 雅章 教授 河合 健太郎 准教授 佐藤 和之 准教授 樽井 敦 講師 軽尾 友紀子 講師	本特論では、有機化学の知識をもとに、臨床で用いられている医薬品をはじめとした多様で複雑な分子の合成及びその合成に関する反応機構などについて論じるとともに、それら医薬品の構造解析を含む化学構造に基づいた構造活性相関などについて論じる。
	製剤学特論	佐久間 信至 教授 田中 佑典 講師 奥田 知将 非常勤講師 古林 呂之 非常勤講師	本特論では、物理化学、物理薬剤学、生物薬剤学、薬物動態学の知識をもとに、医薬品開発で実際に行われている製剤学的な取り組みを紹介し、経口製剤、注射剤、軟膏剤等の一般製剤からドラッグデリバリーシステムを適用した最新製剤に至るまで、その設計理論を教授する。
	薬物動態学特論	片岡 誠 教授 高木 敏英 准教授 南 景子 講師 奥田 知将 非常勤講師 古林 呂之 非常勤講師 橋爪 孝典 非常勤講師	本特論では、薬剤学及び薬物動態学の原理を学習するとともに、医薬品開発における薬物動態学の意義や利用法等について事例を通して論じる。また、個別化医療及び薬物間相互作用等の観点から、医薬品の適正使用における薬物動態学の意義や重要性について論じる。
	臨床統計学特論	小堀 栄子 教授	本特論では、医薬品の臨床開発に必須である臨床統計の考え方を習得するため、臨床統計の理論と解析手法の基本を解説し、論文の実例で理解を深める。
	医薬品開発学演習	表 雅章 教授 片岡 誠 教授 佐久間 信至 教授 河合 健太郎 准教授 佐藤 和之 准教授 高木 敏英 准教授 樽井 敦 講師	本演習では、医薬品開発プロセスに関する基本的な知識を踏まえて、医薬品開発の実際について事例に沿って演習を行う。また、連携医療機関での治験審査委員会への参加等を介して、医療現場での治験プロセスについて演習を行う。このような演習を通して医薬品開発プロセスの理解を深めさせる。
各分野共通	先端薬学研究特論	佐久間 信至 教授 奈邊 健 教授 西田 健太郎 准教授 白坂 善之 非常勤講師 林 竜平 非常勤講師 座間味義人非常勤講師	本特論では、薬学研究科に入学した学生が、本研究科を構成する臨床薬学分野、医薬品開発学分野及び健康薬学分野の視点から、その将来に求められる知識や技能を広く学び、見識を深めることを目的とする。各専門分野の最新情報や幅広い知識などを得るため、有識者による講義を適宜行う。

薬学研究科 博士課程

【医療薬学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
各分野共通	医療薬学特別研究	伊藤 潔 教授 大塚 正人 教授 奥野 智史 教授 尾崎 清和 教授 表 雅章 教授 片岡 誠 教授 河田 興 教授 木村 朋紀 教授 倉本 展行 教授 佐久間 信至 教授 曾根 知道 教授 高田 雅弘 教授 高松 宏治 教授 辻 敏和 教授 奈邊 健 教授 矢部 武士 教授 山岸 伸行 教授 吉岡 靖啓 教授 米山 雅紀 教授 北谷 和之 准教授 首藤 誠 准教授 辻 琢己 准教授	(概要) 学生自らが医療現場での臨床的課題を見出し、その課題について、研究計画の策定、研究方法の開発、研究成果の解析とまとめ、学術論文の作成を実施する。これにより、研究能力の全般を修得させる。 (伊藤 潔) 微生物学 1. 病原微生物がもつ代謝酵素の構造と機能及び阻害剤の開発に関する研究 2. 細菌の機能性タンパク質の応用に関する研究 3. 微生物防除に関する研究 (大塚 正人) 臨床生化学 1. 臨床的に重要な薬物輸送体の構造と機能に関する生化学的研究 2. 薬物輸送体の蛋白質間相互作用とその複合他トランスポートソームに関する研究 3. 早期臨床検査を可能にする先端のオミクス解析技術の開発に関する研究 (奥野 智史) 公衆衛生学 1. 必須微量元素の代謝と生理機能に関する研究 2. 神経膠腫の発症および進展機序の解明とその予防に関する研究 (尾崎 清和) 臨床病態学 1. 疾患モデル動物を用いた病理形態学的解析 2. 医薬品・化学物質における毒性病理学的研究 (表 雅章) 薬化学 1. フルオロアルキル鎖を医薬品に組み込むことで受容体との疎水性相互作用増強を企図する医薬品開発研究 2. 低分子量蛍光化合物の創製と臨床診断薬ならびに蛍光タグとしての利用 3. フッ素を利用した抗代謝性神経伝達物質の合成研究 4. 脂質異常症治療薬エゼチミブの作用機序解明に向けた類縁体合成研究 (片岡 誠) 薬剤学 1. 薬物の消化管吸収機構に関する研究 2. 医薬品の効率的な経口投与システムの開発 3. 薬物の体内動態改善に関する研究 (河田 興) 発達薬理学 1. 早産児・新生児における各種薬物の薬物動態に関する研究 2. 母体使用薬物の胎盤移行、乳汁移行、母子相互作用、新生児薬物離脱症候群など新生児に及ぼす影響に関する研究 3. 添付文書等における新生児を含む小児に関する記載の在り方に関する研究 4. 新生児を含む重症被検者における臨床研究の在り方に関する研究 (木村 朋紀) 公衆衛生学 1. 環境化学物質による毒性の発現機構の解析 2. 環境リスク低減のための毒性評価系構築に関する研究 (倉本 展行) 臨床薬理学、精神医療薬学 1. 神経伝達物質受容体のリン酸化と神経保護作用 (佐久間 信至) 薬物送達学 1. 分子認識能を持つ新規機能性材料並びに同材料を用いた創薬・創剤技術の開発 2. 薬物の膜透過及びその改善技術に関する研究 3. 新しい薬物送達システムに関する研究

薬学研究科 博士課程

【医療薬学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
各分野共通	医療薬学特別研究	伊藤 潔 教授 大塚 正人 教授 奥野 智史 教授 尾崎 清和 教授 表 雅章 教授 片岡 誠 教授 河田 興 教授 木村 朋紀 教授 倉本 展行 教授 佐久間 信至 教授 曾根 知道 教授 高田 雅弘 教授 高松 宏治 教授 辻 敏和 教授 奈邊 健 教授 矢部 武士 教授 山岸 伸行 教授 吉岡 靖啓 教授 米山 雅紀 教授 北谷 和之 准教授 首藤 誠 准教授 辻 琢己 准教授	(曾根 知道) 薬学教育学 1. 薬剤師養成における方略と評価に関する研究 2. 医療機関における患者評価と患者教育に関する研究 3. 薬剤師に対する社会ニーズに関する調査研究 (高田 雅弘) 地域医療学 1. HIV/AIDS 患者に対する長期療養・在宅療養支援に関する研究 2. 地域医療における薬剤師の役割に関する実践的研究 (行政及び地域住民との連携において) 3. 薬物乱用に関する研究 (乱用防止教育と回復支援について) (高松 宏治) 微生物学 1. 蛍光染色剤を用いた微生物活性評価法に関する研究 2. 芽胞形成菌などの危害微生物の検出方法に関する研究 3. 植物由来物質の微生物に対する作用に関する研究 (辻 敏和) 臨床薬学 1. 外科手術後患者などに使用する抗凝固薬等の適正使用に関する研究 2. 処方監査・調剤・調剤薬鑑査中の薬剤師の視線動向に関する研究 (奈邊 健) 免疫薬理学 1. 難治性アトピー疾患の発症機序と治療に関する研究 2. 誘導型制御性 T 細胞による抗原特異的免疫療法の開発 (矢部 武士) 臨床漢方医療薬学 1. 漢方薬・和漢薬の薬理作用、作用機序、薬効成分の総合的な解析 2. 天然物由来医薬品候補化合物の探索 3. 神経・精神疾患に対する新規治療法の開発 (山岸 伸行) 生体分子分析学 1. 神経変性疾患の発症機構と治療標的に関する研究 2. 新規小胞体ストレス応答制御物質の探索と関連疾患治療への応用 (吉岡 靖啓) 薬物治療学 1. 神経グリア細胞間相互作用に関する研究 2. グリア細胞を標的とした神経変性疾患治療薬の開発 (米山 雅紀) 臨床薬理学、精神医療薬学 1. 神経変性後の神経再生機構とその制御に関する薬理学的研究 2. 感音難聴発症とその防御に関する薬理学的研究 (北谷 和之) オンコロジー、脂質生物学 1. 脂質キャリアの創薬薬理学的解析 2. スフィンゴ脂質生物学の解明と創薬 3. がん分子病態の解明とプレジジョン・メディシン (首藤 誠) 医薬品管理学 1. 医療機関における薬物治療に関する研究 (辻 琢己) 臨床病態学 1. 難治性アトピー性皮膚炎に対する新規治療方法の開発 2. 脂溶性薬物中毒に対する最適な薬物療法の構築 3. 副作用回避を目的とした最適な薬物療法の構築 (がん化学療法等)

看護学研究科 修士課程

【看護学専攻】

■研究指導教員

専攻分野	研究指導教員 連絡先メールアドレス	特別研究内容
地域・療養支援看護学領域	田中 結華 教授 y-tanaka@nrs.setsunan.ac.jp	療養生活を送る患者の看護、ストーマ保有者の看護を研究テーマ・研究課題として扱う。看護実践から見出した研究課題を明確にし、量的研究または質的研究方法による一連の研究指導を行う。
	稲垣 美紀 教授 miki.inagaki@nrs.setsunan.ac.jp	急性・重症患者や周術期患者の看護、循環器疾患患者の看護を研究テーマ・研究課題として扱う。看護実践から見出した研究課題を明確にし、量的研究または質的研究方法による一連の研究指導を行う。
	小堀 栄子 教授 kobori@nrs.setsunan.ac.jp	日本在住外国人（移民）を対象に、健康課題の把握と改善をテーマとし、疫学手法を用いた研究を行うための指導を行う。また、移民の健康研究に幅広い視野で取り組む。
	富永 真己 教授 maki.tominaga@nrs.setsunan.ac.jp	看護師や介護士といった医療・保健・福祉産業や IT 産業で働く人々の離職と職場環境、さらに地域の人々の心身の健康の保持増進、疾病の早期発見・早期治療、社会復帰、生活の質の向上などをテーマとした量的・質的研究についての一連の研究指導を行う。
	松田 千登勢 教授 citose.matsuda@nrs.setsunan.ac.jp	様々な場で生活する高齢者・家族への看護、認知症高齢者の看護、介護予防、施設におけるリスクマネジメント、高齢者看護における多職種連携などを研究テーマ・研究課題として扱う。量的研究または質的研究方法を用いた研究指導を行う。
	森谷 利香 教授 moriya@nrs.setsunan.ac.jp	慢性病、特に神経難病を持つ対象の理解や QOL の維持・向上のための看護、および、これらの対象を支える看護職者が抱える課題等を研究テーマとして扱い、質的研究、量的研究を用いた一連の研究指導を行う。
健康発達支援看護学領域	鎌田 佳奈美 教授 kamata@nrs.setsunan.ac.jp	あらゆる健康状態の子どもとその家族の看護、子ども虐待予防・早期発見と家族への養育支援および看護者への支援をテーマ・研究課題とし、質的・量的研究方法による一連の研究指導を行う。
	池田 友美 教授 ikedai@nrs.setsunan.ac.jp	病気や障がいのある子どもとその家族に対して、生活の場で提供される看護実践の研究動向を学修し、子どもと家族が本来もっている力を最大限に発揮できる看護実践のあり方、課題解決の方策を探究するための研究指導を行う。
	井田 歩美 教授 ayumi.ida@setsunan.ac.jp	リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点を持ち、女性の一生を中心にパートナーおよび家族への健康支援に必要な実践的ケアを研究テーマ・研究課題とし、量的研究・質的研究方法およびテキストマイニング法を用いた研究指導を行う。
	佐久間 夕美子 教授 yumiko.sakuma@nrs.setsunan.ac.jp	働く女性の心身の健康保持・増進、健康問題と健康教育のほか、看護系大学の学生の学びや教育効果など、看護学における教育に関する幅広い内容を研究テーマ・研究課題として扱い、量的研究・質的研究を用いた一連の研究指導を行う。
	眞野 祥子 教授 mano@nrs.setsunan.ac.jp	母親の育児負担の軽減、子どもの健全な情緒的身体的発達、父母をはじめとする家族が抱える問題解決を目指し、母親のメンタルヘルス、愛着、養育態度、親子関係をテーマとした研究の指導を行う。

看護学研究科 修士課程

【看護学専攻】

■授業科目

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
地域・療養支援看護学領域	地域・療養支援看護学特論	田中 結華 教授 松田 千登勢 教授 他	地域・病院・施設などさまざまな場で生活する高齢者、健康者、療養者とその家族を理解し、支援するための概念や理論を踏まえ、実践と研究への適応を検討し、多様な課題を持つ人々への看護活動に関する研究への関心と探究心を養う。
	地域・療養支援看護学演習	田中 結華 教授 松田 千登勢 教授 他	地域で療養生活を送る人々、家族が経験する健康問題、健康課題を文献によって明らかにし、その支援方法および評価を行う。関心のあるテーマを焦点付け、疑問を明確にしてフィールドワーク・実習を行い、療養する人々とその家族におきる現象を把握する。これらをもとに、対象者が抱える困難や問題を、社会情勢なども含めた背景を含め、関連する様々な概念や理論を用いて深く思索し、研究課題を明確にする。
	地域・療養支援看護学援助特論	田中 結華 教授 松田 千登勢 教授 他	療養生活を送る人々と家族のQOL向上に向けた看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。療養生活を送る上で、人々が必要とする行動の変容や、そのための教育方略、あるいは急性期からリハビリテーション、終末期といった闘病過程における療養を支援する看護実践を探究する。さらに、これらの看護実践に伴う、対象のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動についても考察する。
健康発達支援看護学領域	健康発達支援看護学特論	井田 歩美 教授 鎌田 佳奈美 教授 他	女性のライフサイクル全般にわたる専門的な看護援助、女性の健康増進と健康に関する問題および疑問を解決するために、Evidence-based Medicine/Nursing (EBM/EBN) に基づいた知見を学修する。さらに成長発達理論、家族関係理論、セルフケア理論など、子どもと家族に関する諸理論や概念を学修し、子どもの文化的背景、社会状況や生活および養育環境との関連の中で子どもと家族の理解を深める。
	健康発達支援看護学演習	井田 歩美 教授 鎌田 佳奈美 教授 他	女性および子どもとその家族を理解し、健康保持・増進および疾病予防、健康回復にむけた実践における課題、専門職のケアの質向上に向けた教育に関する課題など、文献検索やクリティーク、プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらにフィールドワークを行い、疑問や問題としていることを、研究課題へと発展できる能力を養う。
	健康発達支援看護学援助特論	井田 歩美 教授 鎌田 佳奈美 教授 他	女性の健康に関する看護実践方法、および子どもと家族の発達促進、QOL向上に向けた看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。さらにこれらの看護実践に伴う、対象のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動について考察する。

看護学研究科 修士課程

【看護学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
共通科目	看護学研究	小堀 栄子 教授 森谷 利香 教授	看護学における研究の意義を理解し、看護を論理的・客観的・実証的に捉える視点を学ぶ。看護学研究における2つの基本的アプローチである質的研究と量的研究の概要を理解し、それぞれの方法論の持つ特徴、適用、限界について考察する。さらに、研究論文のクリティーク、研究計画の作成について学ぶとともに、看護学研究の倫理を理解したうえで、研究者としての基本的あり方を学ぶ。加えて、看護実践に結びつく看護学研究のあり方についても考察する。
	チーム医療演習 ※隔年開講科目 2023 年度開講	稲垣 美紀 教授	患者を中心とした安全で良質な医療の実現を目指し、チーム医療を推進できる知識や態度を修得するとともに、フィールドワーク・実習を行って、職種間の相互理解と連携、協働の現状を知り、チーム医療について考えることのできる能力を身につける。チーム医療の構成員としての自身の専門性を活かし、リーダーシップを発揮できる力を養う。
	臨床看護倫理	鎗野 りか 非常勤講師	臨床のあらゆる場における倫理的問題について、看護の実際例を通して、看護における倫理の必要性和重要性を考察する。加えて、倫理的問題の分析を実践的に学び、看護師としての対応のあり方、役割と機能を考察する。
	フィジカルアセスメント特論	佐久間 夕美子 教授	臨床推論・臨床判断の考え方およびフィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における意義と必要性を学修する。自身の経験や既知の知識と技術を活用し、身体検査の理解を深める。 症状・所見からフィジカルイグザミネーションとアセスメントを系統的に実施し、看護の対象となる人の身体状況を判断するための能力を培う。また、看護における臨床判断能力を涵養するための教育方法について検討し、考察する。
	疾病・病態特論 ※隔年開講科目 2023 年度開講	坂根 貞樹 教授 (農学部)	臨床の現場では、非典型的な症候を呈し、多彩な合併症を伴って予想外の経過を辿るなど、対応に難渋する患者が少なくない。多くの問題を抱えた患者に適切な診療を行うためには、幅広い視点から正確に病状を捉え、各専門領域の知識を統合した、質の高いチーム医療が求められる。本科目では、実際に担当教員が経験した、診断治療に難渋し臨床示唆に富む実例を呈示して、カンファレンス形式で授業を進める。データを供覧しながら、診断から治療に至る過程を確認し、臨床徴候や検査所見の意義、病態との関連、診療上の問題点や今後の課題について討議し、併せて関連する最新の知見について文献的検索を行う。また、症例の特徴を簡潔かつ明瞭に伝えるために、優れたプレゼンテーションの技法や病歴要約の作成法についても学修する。
	薬物治療学特論 ※隔年開講科目 2023 年度不開講	高田 雅弘 教授 他 (薬学研究科) ※2024 年度開講時は 担当者が変更となる ことがあります。	臨床現場で実施される薬物療法に関する知的基盤および実践的能力を身につける。すなわち、投与される医薬品に関する情報を収集し、そのエビデンスに基づいた薬物治療（投与量や投与法の選択、投薬後のモニタリング、副作用の予防・早期発見等など）を実践できる能力を養成する。加えて、患者に対する個別的な薬物治療や医療倫理について、看護師として必要な判断について学修する。さらに、臨床現場における医薬品の有効性・安全性の評価や各種疾患における薬物治療について、また乳幼児、妊婦・授乳婦、高齢者など注意が必要な患者に対する薬物治療について論ずる。

看護学研究科 修士課程

【看護学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
共通科目	医療経済特論	田井 義人 教授 (経済経営学研究科)	経済・経営管理の諸理論を理解し、保健・医療・福祉における経済・経営的思考を修得するとともに、現状の分析および政策形成に関する考察ができる力を養う。そのために保健医療福祉と経済論、ヘルスケアサービスの経営管理・経済性、看護経営の今後のあり方などの視点から看護師・助産師・保健師として現状を分析：対応するための知識と技能を身につける。
	地域医療防災演習	池内 淳子 教授 他 (理工学研究科)	被災地において被災者の健康維持支援を行う看護師・助産師の役割について学ぶ。はじめに自然災害の発生原因について学習し、拠点施設の室内空間構成や被害事例について、また、都市における拠点施設の空間分布などについて理解を深める。次に、阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアの重要性を理解する。地域での避難所運営訓練などに参画することで、地域防災に寄与する看護師・助産師・保健師としての知識・技能を身につける。
	看護人間工学特論 ※隔年開講科目 2023 年度開講	川野 常夫 教授 他 (理工学研究科)	人間工学は、人間の心理、生理、身体の特性を踏まえ、それらの観点から機器の設計や人間の動作解析などを行う学問である。本科目では、まず人間工学の基礎知識や方法論などを学修し、次いで看護や介護の場における人間工学の役割、医療機器・介護機器などのユーザビリティ評価方法、看護・介護に必要な動作の解析評価方法などについて理解する。
	看護教育特論	池田 友美 教授	看護教育の現状と課題、解決方法について探究し、教授活動を展開するために必要となる基本的知識の修得を目的とする。教育学および成人教育理論のほか、看護教育課程の編成や授業設計、教育方法、評価方法の基本的知識について学修し、看護教育に関する理解を深める。
	看護教育方法演習	佐久間 夕美子 教授 他	質の高い看護を提供し得る人材育成のための教育実践の方法論を理解し、授業設計の構成要素とその関連性、授業づくりの基本を学ぶ。精錬授業に向けた指導案を作成し、実施した授業について評価を行うという一連の過程を通じて、看護学教育のための基礎的能力を培う。
	看護現任教育特論	佐久間 夕美子 教授	看護職者の特性を踏まえ、その学習ニーズと看護継続教育及び現任教育のあり方について理解する。現任教育の現状と課題を明らかにした上で、成人学習者である看護職者を対象とした院内教育の計画立案、教育方法、評価方法について多角的に考察する。

看護学研究科 修士課程

【看護学専攻】

専攻分野	授業科目	担当教員	内 容
共通科目	特別研究	鎌田 佳奈美 教授 池田 友美 教授 井田 歩美 教授 稲垣 美紀 教授 小堀 栄子 教授 佐久間 夕美子 教授 田中 結華 教授 富永 真己 教授 松田 千登勢 教授 眞野 祥子 教授 森谷 利香 教授	専攻する領域の演習で明らかになった研究疑問に基づき、研究課題の明確化、研究目的の設定、研究計画立案、研究倫理審査受審、データ収集、分析・解釈、論文作成、発表が行えるよう指導し、研究を実施する基礎的な能力を育成する。